

日本体育大学研究シーズ集

目 次

学 部	学 科	役 職	氏 名	フリガナ	研究タイトル	ページ
体育学部	体育学科	教授	大本 洋嗣	オオモト ヨウジ	水泳(水球)競技の戦術分析とコーチング	… 4
		教授	荻 浩三	オギ コウゾウ	スポーツ文化の「現在」を識る	… 5
		教授	中澤 幸子	ナカザワ サチコ	生きづらさを抱える当事者・家族の支援	… 6
		教授	山崎 博和	ヤマザキ ヒロカズ	トランポリン競技における競技力評価と選手育成構造の可視化	… 7
		准教授	市川 純	イチカワ ジュン	18・19世紀英文学と現代文化	… 8
		准教授	大塚 光雄	オオツカ ミツオ	スポーツ動作を科学する	… 9
		准教授	長田 舞	オサダ マイ	語りとイメージ	… 10
		准教授	高井 秀明	タカイ ヒデアキ	スポーツの心理を追求する	… 11
		准教授	村井 敬太郎	ムライ ケイタロウ	楽しい体育授業を目指して	… 12
		助教	氏家 史人	ウジエ フミト	音楽リズムが繋ぐスポーツリズムへのアプローチ	… 13
		助教	畑山 茂雄	ハタケヤマ シゲオ	円盤投げのトレーニング	… 14
		特任助教	久保田 茉莉	クボタ マリ	女性の女性による女性のための憲法学	… 15
	健康学科	教授	岡本 孝信	オカモト タカノブ	心血管機能の新たな可能性を探る	… 16
		教授	北島 洋美	キタジマ ヒロミ	誰も取り残さない社会を目指して	… 17
		教授	小林 正利	コバヤシ マサトシ	人体の構造と機能を科学する	… 18
		教授	今野 哲	コンノ アキラ	文芸の可能性を掬い取る	… 19
		教授	鈴川 一宏	スズカワ カズヒロ	公衆衛生学で考える、子どもに必要な生活習慣と運動習慣	… 20
		教授	津山 薫	ツヤマ カオル	小児期の運動習慣が未来の健康を支える	… 21
		教授	野井 真吾	ノイ シンゴ	子どもの“元気”を探求する	… 22
		教授	橋本 典生	ハシモト ミツオ	呼吸機能とフレイル予防	… 23
		教授	横山 順一	ヨコヤマ ジュンイチ	Successful Agingの実現を	… 24
		助教	田中 良	タナカ リョウ	健康の実態把握から実践提案へつなぐ！	… 25
スポーツ文化学部	武道教育学科	教授	南部 さおり	ナンブ サオリ	スポーツ・学校における危機管理研究	… 26
		教授	八木沢 誠	ヤギサワ マコト	剣道を探求する	… 27
		准教授	齋藤 雅英	サイトウ マサヒデ	橋渡し型研究者	… 28
	スポーツ国際学科	教授	岡出 美則	オカデ ヨシノリ	体育教師教育と障害者スポーツ改善に向けたシーズ形成	… 29
		教授	波多腰 克晃	ハタコシ カツアキ	部活動の地域定着と系譜学・哲学	… 30
		教授	山口 和之	ヤマグチ カズユキ	英語および言語全般の機能語の多義語の解明	… 31
		准教授	門屋 貴久	カドヤ タカヒサ	保健体育科教員の役割やイメージ	… 32
		准教授	寺岡 英晋	テラオカ エイシン	子どもの心身の健康と大人の役割	… 33
		准教授	福井 元	フクイ ゲン	スポーツを通して、社会の変化を読む	… 34
		准教授	松浪 登久馬	マツナミ トクマ	対立を調和に変える(身体)文化:北米先住民族球戯の機能と構造	… 35

目 次

学 部	学 科	役 職	氏 名	フリガナ	研究タイトル	ページ
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	教授	齊藤 隆志	サイトウ タカシ	観戦時に何を見て考えているか	… 36
		教授	日比野 幹生	ヒビノ ミキオ	ヨーロッパの先駆的スポーツマネジメントの応用	… 37
		教授	横田 匡俊	ヨコタ マサトシ	スポーツ環境整備を「補助」から「投資」へ	… 38
		助教	清宮 孝文	キヨミヤ タカフミ	データに基づく集客戦略	… 39
		特任助教	荻間 英樹	オギマ ヒデキ	外国人観光客と住民をつなぐ心のメカニズム	… 40
		特任助教	矢野 広明	ヤノ ヒロアキ	オンザジョブにおけるコーチ育成と組織風土の探求	… 41
	スポーツライフマネジメント学科	教授	三村 覚	ミムラ サトル	アスリートの“こころ”をみつめる	… 42
児童スポーツ教育学部	児童スポーツ教育学科	教授	稲田 結美	イナダ ユミ	女子の理科への意欲を高める教育モデル	… 43
		教授	齊藤 多江子	サイトウ タエコ	012歳児 空間が保育をサポートします	… 44
		教授	杉本 直美	スギモト ナオミ	「記述中」に着目した作文指導法の開発	… 45
		教授	須永 美歌子	スナガ ミカコ	スポーツ科学で支える女性のパフォーマンス	… 46
		教授	田口 紘子	タグチ ヒロコ	社会認識形成の解明や支援	… 47
		教授	中島 龍一	ナカジマ リュウイチ	ピアノ表現の可能性を探る！	… 48
		准教授	門脇 大輔	カドワキ ダイスケ	人間としてより善く生きることを追求する	… 49
		准教授	河田 聖良	カワダ セイラ	多様な遊びが経験できる保育環境を提案します	… 50
		准教授	鈴木 康介	スズキ コウスケ	すべての子どものための運動指導 / 教材開発 / 授業づくり	… 51
		助教	村田 翔吾	ムラタ ショウゴ	数学的探究を促進するための教材開発	… 52
保健医療学部	整復医療学科	教授	稲川 郁子	イナガワ イクコ	「ほねつぎ」を記録する・柔道を考える	… 53
		教授	河野 徳良	コウノ トクヨシ	アスレティックトレーニングの世界	… 54
		教授	小山 浩司	コヤマ コウジ	不良姿勢を改善するシーズの探索	… 55
		教授	白石 聖	シロイシ キヨシ	扁平足の構造と機能を探る	… 56
		教授	中里 浩一	ナカザト コウイチ	筋機能を向上するシーズの探索	… 57
		教授	松田 康宏	マツダ ヤスヒロ	施術の効果を「見える化」する評価方法の開発	… 58
		准教授	上倉 将太	カミクラ ショウタ	パフォーマンスを支えるシーズ探索	… 59
		准教授	樋口 毅史	ヒグチ タケシ	柔道整復師の活動フィールド拡大	… 60
		講師	小林 喜之	コバヤシ ヨシユキ	柔道整復学で対象となる外傷・障害に対する探究	… 61
	救急医療学科	教授	川上 康彦	カワカミ ヤスヒコ	酸化ストレスとてんかんの関連	… 62
		准教授	阿藤 聡	アトウ サトル	筋力トレーニングによる筋肥大の細胞・分子メカニズム解明	… 63
		助教	原田 諭	ハラダ サトシ	VRを活用した教育・研究	… 64
		助教	三橋 正典	ミツハシ マサノリ	生体過大侵襲が救急システムや救急現場活動におよぼす影響の研究	… 65

水泳（水球）競技の戦術分析とコーチング



体育学部 教授
体育学部長・水泳部部长

大本 洋嗣

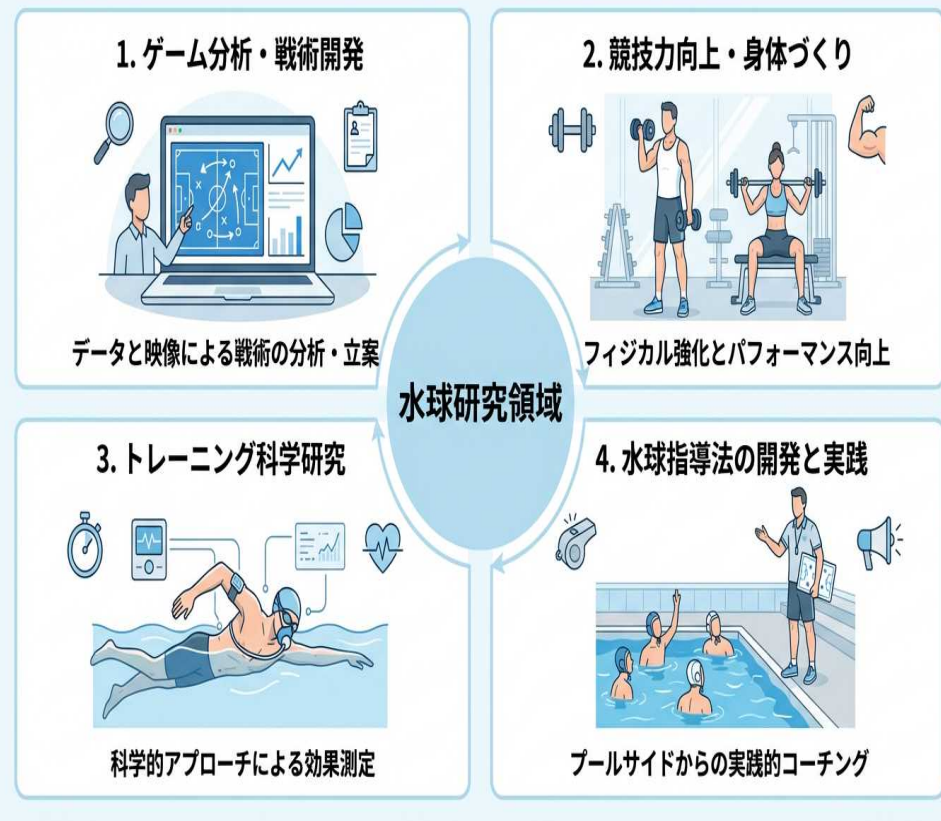


主な経歴・業績
researchmap

研究概要

水球競技における戦術分析とトレーニング科学を融合させた実践的研究を展開しています。特にゲーム分析に基づく日本独自の戦術構築や、世界の強豪国と戦うためのフィジカルトレーニングや技術向上に取り組んでいます。

水球男子代表監督としてオリンピックに2大会連続で出場した現場経験と理論を架橋し、データを活用したエビデンスベースの指導法確立と、国際競技力向上に資するコーチング体系の構築を目指しています。



キーワード：水泳，水球，コーチング，
用途・応用分野：指導者育成，指導法開発

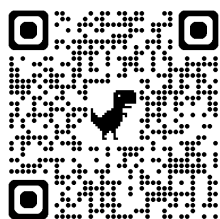
アピールポイント

豊富な国際経験と実績
理論と実績を融合させた指導法の確立
独自の戦術理論構築とデータ活用ノウハウ
組織マネジメント

スポーツ文化の「現在」を識る

体育学部 教授

荻 浩三



主な経歴・業績
researchmap



Web講義
YouTube

研究概要

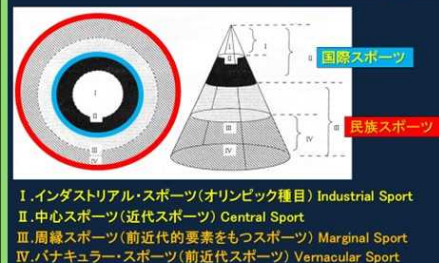
北米先住民族の球戯史研究を進めており、関連の民族誌を蒐集・渉猟しています。

当該の史資料からは変容や衰退、消滅した球戯の詳細が確認できます。スポーツ史は、スポーツとはなにか、という根源的問いに対し、歴史の側からの解答を提示する分野です。それぞれの時代や社会でスポーツはどんな存在だったのか？スポーツの過去を再構成することは、その現在あるべき姿や未来の理想像を探るひとつの試みです。

「スポーツの輪郭（全体像）をより精確に描き出す」

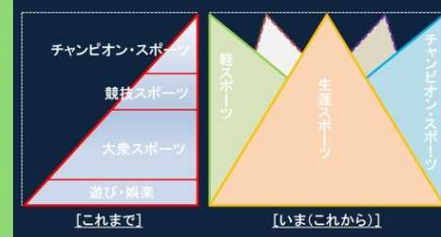
★「スポーツ」の捉え方（拡がり）

「近代世界のスポーツの構造モデル」：稲垣正浩



★「スポーツ」の多様な志向

「スポーツ文化」に優劣はなく、対等であるという考え方に基つき、さまざまなスポーツの在り方を容認する



キーワード：国際スポーツ、民族スポーツ
用途・応用分野：生涯学習、地域創生など

アピールポイント

競技力の向上や健康の維持・増進に直接貢献する領域ではありませんが、眼前のスポーツが抱える諸問題（ドーピング、コマーシャリズムなど）を解決するための手がかりを得ることができます。

生きづらさを抱える当事者・家族の支援

体育学部 教授

中澤 幸子

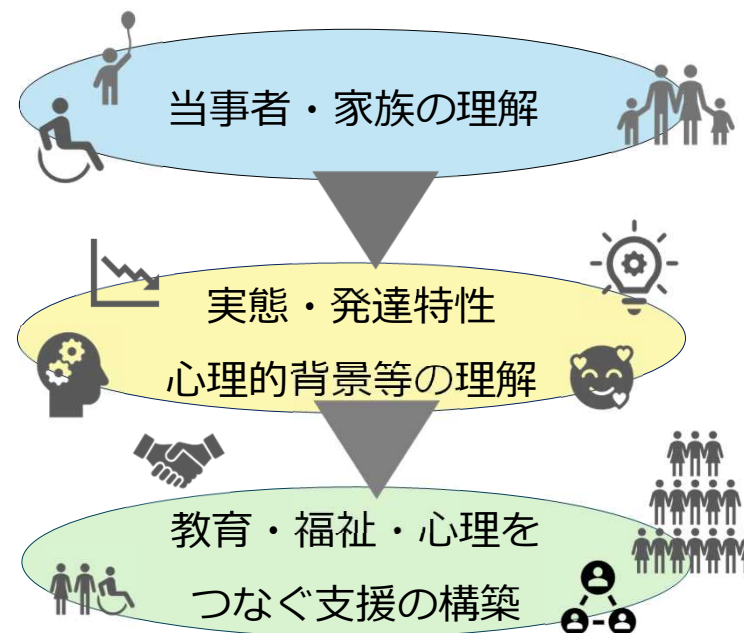


主な経歴・業績

<https://researchmap.jp/ronko>

研究概要

特別支援教育・社会福祉学・臨床心理学・教育心理学を専門領域としています。障害、医療的ケア、不登校や発達障害等を含む精神疾患・慢性疾患、社会的養護等、生きづらさを抱える当事者と家族を主たる対象として研究を行っています。実態や発達特性、心理的背景を踏まえ、教育・福祉・心理を横断した実践的・理論的研究を展開しています。



生きづらさを抱える当事者・家族の実態を踏まえ、発達・心理等の理解を基盤に、教育・福祉・心理を横断した支援を構築し、実践へ還元する研究を進めています。

キーワード：生きづらさを抱える当事者・家族の理解・支援

用途・応用分野：多職種連携の支援モデル開発

アピールポイント

子どもを支援する多様な専門職とのネットワークを有し、当事者・家族・支援者の課題に寄り添いながら、支援の質向上に資する知見の構築を目指しています。

トランポリン競技における競技力評価と選手育成構造の可視化



体育学部 教授

山崎 博和



主な経歴・業績
researchmap

研究概要：我々は、トランポリン競技における競技力の本質を明らかにすることを目的とし、日本国内の大会や世界選手権・オリンピック決勝進出者の演技を対象とした比較分析および演技特性の分析を行っている。これにより、競技レベル間に存在する質的差異を定量的に示すとともに、“技”の獲得に着目した新たな競技力評価モデルを構築して指導現場へのフィードバックを目指している。さらに、その知見を他競技へ応用する可能性についても検討している。

【競技力評価モデル】

【競技データ】

- ・五輪／世界選手権etc
- ・全日本学生選手権

【演技成績・演技特性分析】

- ・得点構成比
- ・演技の質
- ・技の組み立て
- ・動作分析

【質的差異の定量化】

- ・競技レベル差
- ・技獲得過程
- ・空中感覚

【他競技への応用】

キーワード：

トランポリン競技, 競技力分析, 得点構成

用途・応用分野：

コーチング科学、アクロバット競技

アピールポイント：トランポリン競技の得点データ、演技特性を基に競技力を定量的に評価し、技の獲得過程を可視化できる点に強みを有する。さらに、空中でのボディーバランスに着目した分析は、他競技への応用の可能性が示唆される

18・19世紀英文学と現代文化



体育学部 准教授

市川 純



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

研究の中心は18世紀半ば～19世紀の英文学、特にゴシック小説や墓場派、ロマン主義、ヴィクトリア朝の作品です。西洋古典以来の文学史や、同時代の独仏伊などの文学思潮、世界史的ダイナミズム、作家個人の体験などを踏まえつつも、研究の着地点が文学作品としての意義となるよう意識しています。また、英文学作品の翻訳・翻案、それらに由来する現代のポップ・カルチャーやサブカルチャーも研究しています。

主要著訳書



ゴシック、ロマン主義文学の論考、シェリー、ロセッティ、バロック音楽の入門書の翻訳などがあります。趣味でチェンバロ演奏もします。

キーワード：シェリー、ロセッティ、ゴシック

用途・応用分野：翻訳、アート、ファッション

アピールポイント

研究対象の内、『フランケンシュタイン』や『不思議の国のアリス』については、テレビ番組の取材協力や博物館展示のアドバイザーも務め、より多くの人に魅力が伝わるよう努めてきました。

スポーツ動作を科学する



体育学部 准教授
スポーツバイオメカニクス研究室

大塚 光雄



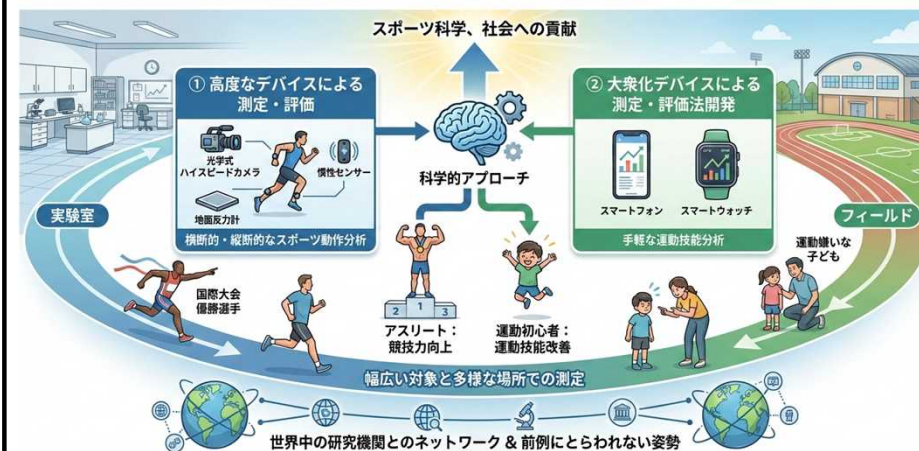
主な経歴・業績
researchmap



研究室ホームページ
OtsukaLab

研究概要

スポーツバイオメカニクス領域では、強い選手の特徴やトレーニングによる成長は、筋腱メカニクスやスポーツ動作中の運動学・動力的に分析・評価されています。そこで私たちは、一流アスリートから運動嫌いの子どもたちを対象に、MRIやハイスピードカメラ、光学式モーションキャプチャシステムおよび地面反力計といった最新機器を用いて、トレーニングやコーチングに役立つ研究に取り組んでいます。



►科学的アプローチによるパフォーマンス向上と運動技能改善

キーワード：アスリート、子ども、競技力、スポーツ傷害、アプリケーション開発、スポーツ用具
応用分野：トレーニング、コーチング、商品開発、教育など

アピールポイント

科学的なアプローチによって、アスリートにおける競技力向上や運動初心者における運動技能の改善をねらいます。現在は、① 高度なデバイスを用いた横断的・縦断的なスポーツ動作の測定・評価、② 大衆化されたデバイスを用いた運動技能の測定・評価方法の開発に力を入れています。

語りとイメージ

体育学部 准教授

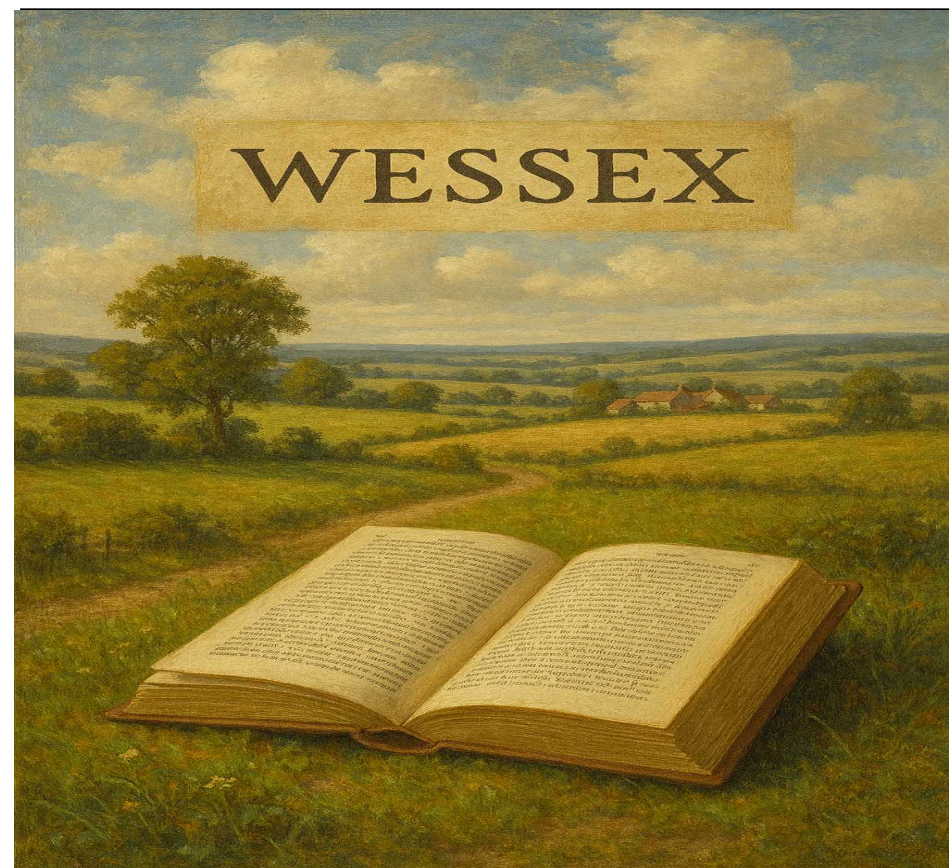
長田 舞



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

19世紀のイギリス文学を中心に研究しています。研究のテーマは文学作品における狂気の表象で、文学作品における語り、ジェンダー、および当時の社会状況との関係という3つの視点から詳細に考察し、各作品における特徴を明らかにしています。また、トマス・ハーディの作品における語りとイメージの形成にも関心があり、ハーディの作品におけるイメージ形成についても研究しています。



キーワード：イギリス文学、語り、イメージ
用途・応用分野：英語教育

アピールポイント

文学研究を通して、英語だけでなく、英国の文化や歴史などを学ぶことができます。異文化を知することは、自らの言語や文化、歴史についても考える機会となります。

スポーツの心理を追求する



体育学部 准教授
ハイパフォーマンスセンター 兼任教員
NASS心理サポート部門 部門長
アーチェリー部 部長

高井 秀明



主な経歴・業績

Researchmap

<https://hideaki-takai.mental1.net/>

研究概要

私たちの研究グループはスポーツ心理学を専門とし、アスリートの心理支援に貢献するセンシング技術の研究開発に取り組み、アスリートのパフォーマンス向上、指導者のコーチング力向上を図っています。さらに、心理学的知見を活用し、組織の人材育成、チームビルディング、メンタルヘルスおよびウェルビーイングの向上につながる心理教育プログラムの開発と実証研究を推進し、その社会実装を目指しています。



メンタルトレーニング



センシング技術



心理状態の可視化



チームビルディング



メンタルヘルス

キーワード：メンタルトレーニング、センシング技術、心理状態の可視化、チームビルディング

アピールポイント

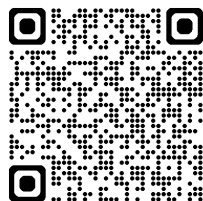
私たちは、スポーツ心理学を基盤とし、センシング技術（例：脳波、自律神経活動、皮膚電気活動、眼球運動、唾液ストレスマーカー）を活用して心理状態を可視化し、科学的根拠に基づく心理支援方法の開発に取り組んでいます。

楽しい体育授業を目指して



体育学部 准教授
特別支援教育研究室

村井 敬太郎



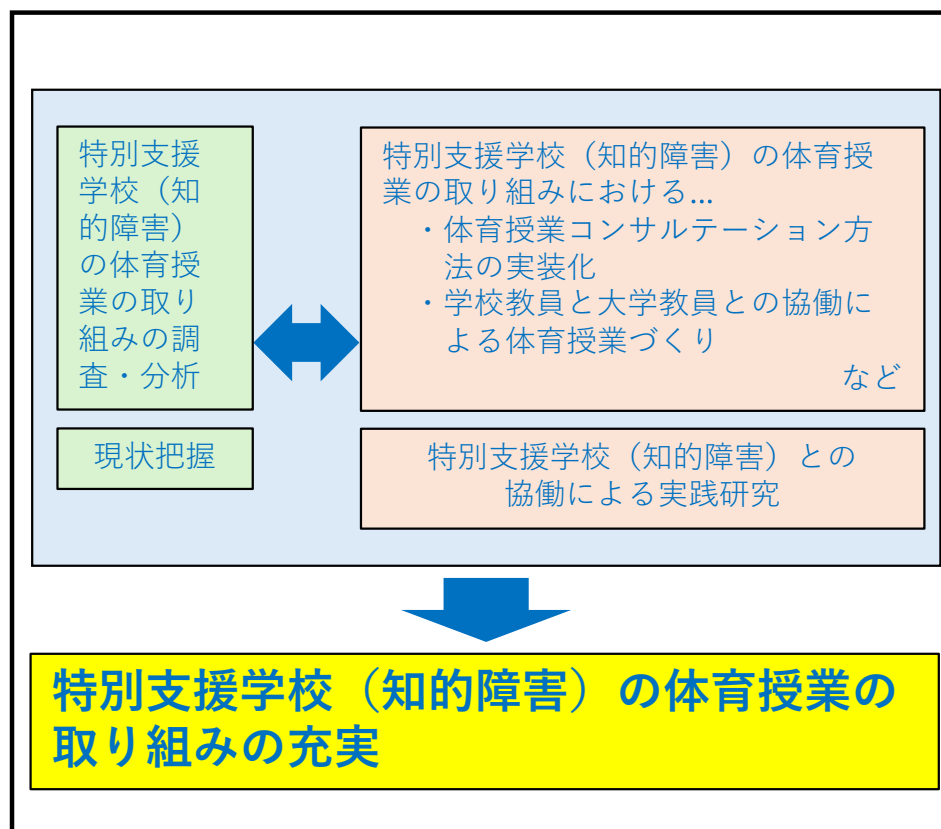
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

特別支援学校（知的障害）における体育授業づくりの研究に取り組んでいます

- ・ 特別支援学校（知的障害）教員及び学校全体の体育授業づくりの困難さの調査、分析
- ・ 特別支援学校（知的障害）の体育授業コンサルティング方法の実装化
- ・ 特別支援学校（知的障害）教員との協働による体育授業づくり

など



キーワード : 知的障害教育, 体育授業
用途・応用分野 : 特別支援学校（知的障害）の体育授業づくり, 研修支援

アピールポイント

特別支援学校教員と教員研修を担当した研究員の経験を踏まえ、特別支援学校（知的障害）の現状に応じた体育授業づくりの実践研究に現場の先生方と協働で取り組むことができます

音楽リズムが繋ぐ スポーツリズムへのアプローチ



体育学部 助教

氏家 史人



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

音楽におけるリズムの認知と表現能力が、スポーツ動作における運動リズムの形成や安定性とどのように関わるのかを実証的に検討する。音楽的リズム課題と運動課題を比較・分析し、リズム学習を通じた運動パフォーマンス向上の可能性を探る。

音楽リズムからスポーツリズムへの応用研究



キーワード：音楽・運動リズム、
リズム知覚・表現活動

用途・応用分野：教育、運動、アナリゼ

アピールポイント

音楽のリズムを感じ取る力や表現する力が、スポーツの動きやタイミングとどのように関係しているのかを探る研究です。音楽と運動を結びつけ、新しい学びやパフォーマンス向上の可能性を広げます。

円盤投げのトレーニング



体育学部体育学科 助教

畑山 茂雄



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

陸上競技（円盤投げ）における動作分析やトレーニング内容に関する研究。円盤投げにおいてどのような観点から練習を行うが良いのかを日々研究している。

円盤投げを研究する



- ★実践指導
- ★プログラム
- ★アドバイス

円盤投げに関するトレーニング方法
円盤投げに関する知識

キーワード：陸上競技（円盤投げ）動作分析
・トレーニング

用途・応用分野：

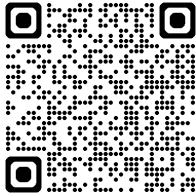
アピールポイント

陸上競技（円盤投げ）において、競技力向上するにはどのようなトレーニングが必要か常に考え、指導にあたっている。

女性の女性による女性のための憲法学

体育学部 助教

久保田 茉莉



主な経歴・業績
researchmap

<https://researchmap.jp/kubota-mari>

研究概要

ジェンダーの視点で憲法学研究を行っている。憲法学の担い手は主として男性であり、いたるところにジェンダーバイアスがかかっているため、その打破を目指す。

これまで女性兵士研究を行ってきたが、ここ数年は、日本における買春処罰導入の可能性を探るべく、フランスの買春処罰法を検討している。主著に、『軍隊への男女共同参画——女性の権利の実現と軍事化の諸相』（日本評論社、2024年）。



左は、フランス人権宣言。しかしその内実は、人権を僭称した男権宣言である。右は、この欺瞞を喝破したオランプ・ド・グージュの「女性及び女性市民の権利宣言」。

DÉCLARATION DES DROITS DE LA FEMME ET DE LA CITOYENNE,

A décréter par l'Assemblée nationale dans ses dernières séances ou dans celle de la prochaine législature.

PRÉAMBULE.

Les mères, les filles, les sœurs, représentantes de la nation, demandent d'être constituées en assemblée nationale. Considérant que l'ignorance, l'oubli ou le mépris des droits de la femme, sont les seules causes des maux publics et de la corruption des gouvernements, ont résolu d'exposer dans une déclaration solennelle, les droits naturels, inaliénables et sacrés de la femme, afin que cette déclaration, constamment présente à tous les membres du corps social, leur rappelle sans cesse leurs droits et leurs devoirs, afin que les actes du pouvoir des femmes, et ceux du pouvoir des hommes pouvant être à chaque instant comparés avec le but de toute institution politique, en soient plus respectés, afin que les réclamations des citoyennes, fondées désormais sur des principes simples et incontestables, tournent toujours au maintien de la constitution, des bonnes mœurs, et au bonheur de tous.

En conséquence, le sexe supérieur en beauté comme en courage, dans les souffrances maternelles, reconnaît et déclare, en présence

キーワード：憲法、女性の人権、フェミニズム

用途・応用分野：立法、行政、司法

アピールポイント

日本ではこれまでほとんど行われてこなかった、憲法学と女性学を架橋する研究に取り組んでいる。

26歳で博士（法学）取得。平井嘉一郎研究奨励賞、平塚らいてう賞、西尾学術奨励賞ほか受賞。

心血管機能の新たな可能性を探る



体育学部 教授

岡本 孝信



主な経歴・業績
researchmap



岡本研究室
ホームページ

研究概要

心臓や血管は、単に血液を送るための器官として働いているわけではありません。ジョギングや筋力トレーニングなどのさまざまな運動、不活動、さらには栄養摂取といった生活習慣に応じて大きく変化・適応します。

私の研究室では、心血管機能を指標として、健康増進やスポーツパフォーマンスの向上に寄与する運動や栄養戦略の確立を目指して研究を進めています。

心血管機能を指標とし、健康増進やパフォーマンス向上に貢献する！

健康増進



競技力



食事



不活動



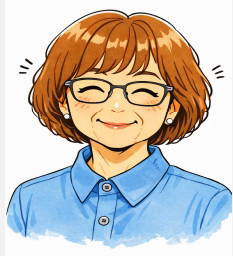
運動

キーワード：心臓、血管、運動、不活動、食
用途・応用分野：健康、スポーツ、栄養、食品

アピールポイント

“Keep Trying from Vascular Function to Health and Performance”をスローガンに世界を見据えた研究に挑戦し続けています。様々な企業との共同研究や国際共同研究を通して世界に向けた科学的エビデンスの創出に取り組んでいます。

誰も取り残さない社会を目指して



体育学部 教授
学生センター長

北島 洋美



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

老年学を基盤に、高齢期における生活課題や福祉サービス提供者の意識、マイノリティ高齢者に対する差別や偏見の実態をテーマに研究を行っています。とりわけLGBTQ+高齢者に焦点を当て、その生活上の困難やニーズを明らかにすることを目指しています。こうした知見を通して、誰もが安心して暮らせる支援体制の構築に貢献したいと考えています。

研究を行う

セクシュアリティを隠さざるを得なかった経験が
高齢期の生活・健康に及ぼす影響

性的マイノリティに関する否定的情報・社会規範



自己防衛のためにセクシュアリティを隠す
家族関係の調整・距離化
転職・転居の反復
地域との交流回避

自己否定・スティグマの内在化



孤立・孤独の進行
支援アクセスの制限
健康リスクの増大

研究を役立てる

マイノリティに配慮できる支援体制の構築
サービス提供者研修
地域住民への正しい知識・情報の提供
政策提言 など



キーワード：高齢者，マイノリティ，差別偏見
用途・応用分野：社会福祉，教育，地域活動など

アピールポイント

福祉現場や支援団体、当事者との連携を通じて実態を把握し、多様な高齢者の課題を幅広く捉えられる点が強みです。研究成果は対人支援の現場実践や制度改革に役立てることが出来ます。

人体の構造と機能を科学する



体育学部 教授
体育学部長補佐
教学センター長

小林 正利

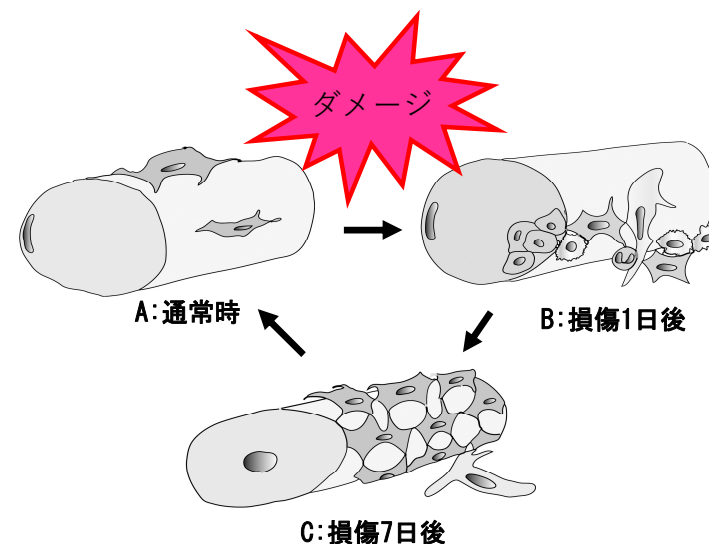


主な経歴・業績
researchmap

研究概要

骨格筋の再生過程に関わる細胞の組織化学的検討や筋内ミトコンドリアの形態学的研究等を進めています。

また、子ども達の骨密度を測定し、運動と健康関連機能の発達の検討も行っています。



Cell to Cell contact、細胞性ネットワークの役割は？

筋修復時に数種の単核細胞出現し（B）修復筋周囲でネットワークを形成する（C）。この“Cell to Cell contact”の意味・役割の評価。

キーワード：健康科学、顕微解剖学、骨密度
用途・応用分野：食品、医薬品、健康器具

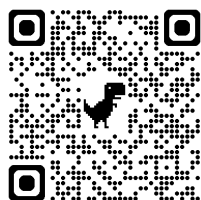
健康運動関連機能の評価や顕微解剖学分野において骨や骨格筋の発達や再生に関する研究を行っています。

文芸の可能性を掬い取る



体育学部 教授

今野 哲



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

文芸作品の持つ多様な表情や意味を析出する研究を行っています。主な研究対象は19世紀から20世紀にかけての日本語文学ですが、現代文学やスポーツ・ノンフィクションの研究にも取り組んでいます。

文芸研究は、個人としての研究主体から発する value of useless の学芸です。何かの役に立たせられることを極力忌避し、有益性・効率性・多数者専制への反抗や異議を開示できる研究を目指しています。

現代思想 読者 政治 構造 他者
★ テクスト 語り 伝記 評伝 時代 ★
古典 精神分析 作家論 テクノロジー
国民国家 プロット 言語学 書誌 文化人類学
考現学 文芸理論 表象 暴力 ★
近代 異界 作品研究 風土 ★ノマド
翻訳 史学 形象 ジャンル 短詩型
AI 死者 情調 アダプト ★
受容 テーマ ジェンダー 民主主義
アナキズム 宇宙論 不便益 身体 変身
移動 アジア 社会学 差別 夢 戦争

どこに狙いを定めるか?

キーワード：日本文芸学・近代小説・近代短歌
用途・応用分野：国語教育

アピールポイント

本学で科目「国語表現」の講義を長期にわたって担当しているため、文章作成・小論文作成・レポート作成等の指導にも対応できます。

公衆衛生学で考える、 子どもに必要な生活習慣と運動習慣



体育学部 教授

鈴木 一宏

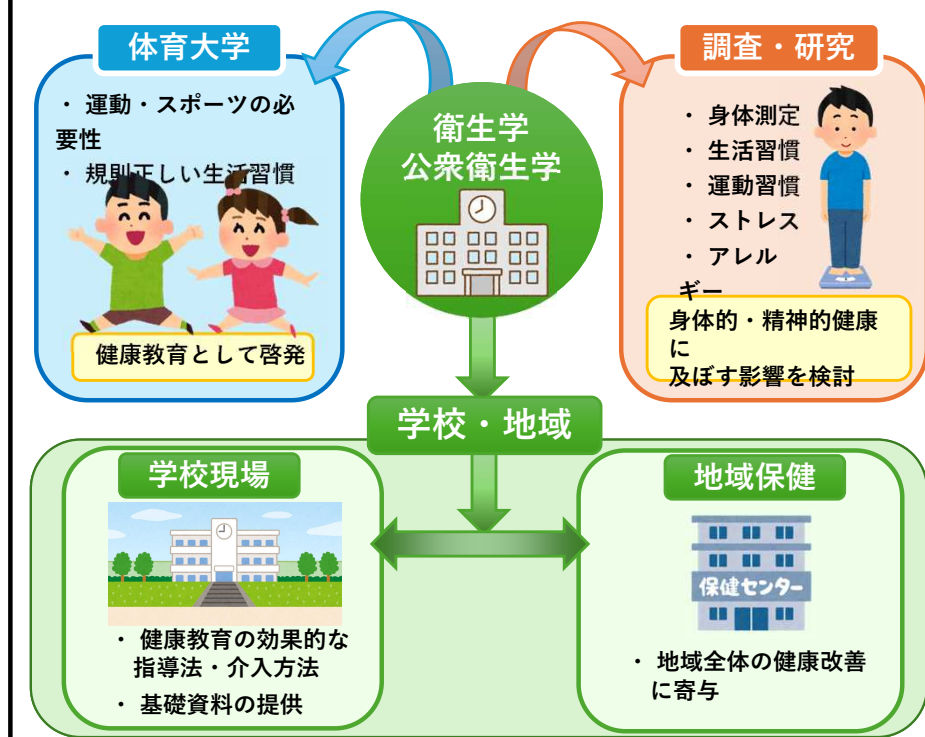


主な経歴・業績
researchmap

研究概要

体育大学における「衛生学・公衆衛生学」の役割は、運動やスポーツの必要性、さらに規則正しい生活習慣の重要性を、学校現場や地域保健を通じた健康教育として啓発することにあります。本研究室では、公衆衛生活動を主軸として、子どもを対象に身体測定や生活習慣、運動習慣、ストレスやアレルギーの状況に関する調査を行い、これらが身体的・精神的健康に及ぼす影響を検討しています。これにより、学校現場や地域における健康教育の効果的な指導法や介入方法の基礎資料を提供することを目指しています。

体育大学における「衛生学・公衆衛生学」の役割



キーワード：子ども、生活習慣、運動習慣、
防衛体力、ヘルスプロモーション
用途・応用分野：健康教育、メンタルヘルスなど

アピールポイント

体育・スポーツ科学と衛生学・公衆衛生学を融合し、子どもの生活習慣や運動習慣、ストレスが心身の健康に及ぼす影響を検討している。国内の学校現場および海外日本人学校を研究フィールドとし、得られた知見を健康教育や学校独自体操の開発へと展開する実践的公衆衛生研究を推進している。

小児期の運動習慣が未来の健康を支える



体育学部 教授
大学院博士後期課程○合教授
トライアスロン部 部長

津山 薫



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

現在、日本では少子高齢化が急速に進行しており、中高齢者の健康づくりは喫緊の社会的課題となっています。成人以降に運動習慣を新たに確立することは容易ではないことから、生涯にわたる健康の維持・増進を図るためには、幼児期から学童期における運動習慣の形成および望ましい生活習慣の獲得が極めて重要です。

そこで本研究室では、特に子どもの運動習慣に着目し、筋力や運動能力を指標として、発育・発達と健康との関連を中心に研究を推進しています。

- 1) 運動好きな子どもの育成
- 2) 小児期における運動習慣の形成



- 1) 成年期以降の運動習慣者の増加
- 2) 加齢による体力低下の抑制



- 1) 中高齢者の体力維持・向上
- 2) 生活習慣病の減少
- 3) 健康寿命の延伸



医療費の抑制

キーワード： 子ども、体力・運動能力、健康づくり

用途・応用分野： 国民の健康維持・増進

アピールポイント

子どもだけでなく、中高齢者の体力測定も定期的に行っています。さらに、博士後期課程の大学院生が在籍し、日本のみならず海外の子どもたちを対象とした研究を積極的に推進しています。研究成果は学会発表や学術論文を通して、広く社会に発信しています。

子どもの“元気”を探求する



体育学部 教授
子どものからだ研究所所長

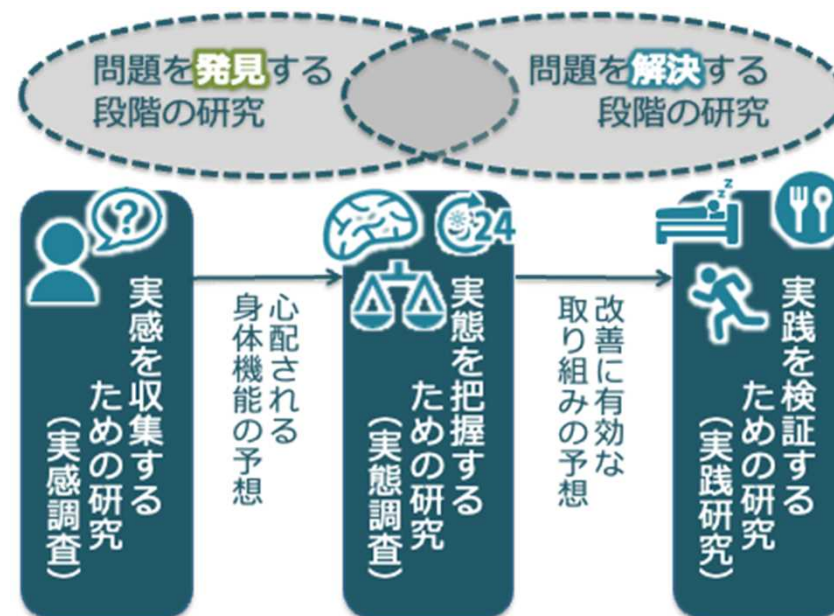
野井 真吾



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私たちの研究グループでは、教育生理学、学校保健学、発育発達学、体育学を専門領域として、子どもの“からだと心”にこだわった研究に従事しています。具体的には、子どものからだ、心、生活が「どこかおかしい」「ちょっと気になる」という保育・教育現場の先生方や子育て中のお母さん、お父さん等の“実感”をたよりに、“からだ”にこだわって“事実”を明らかにし、子どもの“元気”を育む研究活動に努めています。



▼ 子どもの“からだと心”に関する
研究の段階とそれに応じた諸研究

キーワード：子ども、からだ、心、体力、生活用途
応用分野：保育、教育など

アピールポイント

保育・教育現場はもちろん、子どもを取り巻くあらゆる分野の専門家とつながっている・前頭葉機能、自律神経機能、睡眠覚醒機能、視機能、体力・運動能力等、子どもの身体機能を幅広く測定、評価できる体制がある。

呼吸機能とフレイル予防



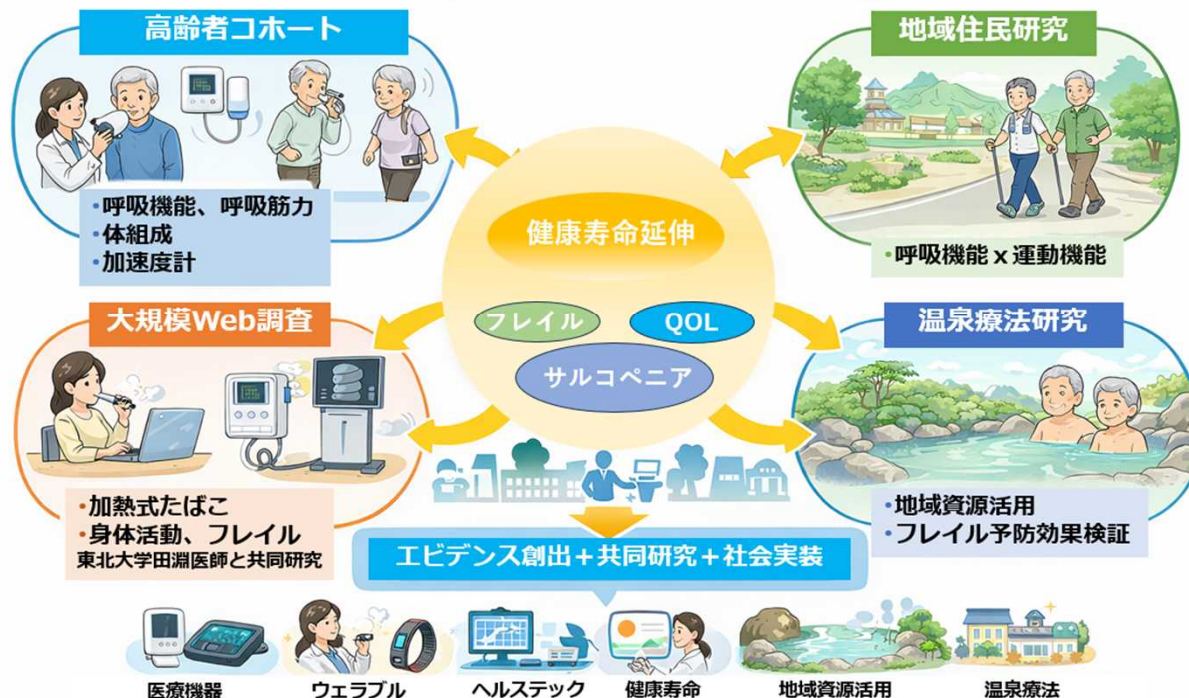
体育学部 教授
健康管理センター長

橋本 典生



主な経歴・業績
researchmap

呼吸機能を基盤としたフレイル予防モデルの社会実装



研究概要

本研究は、呼吸機能・呼吸筋力・体組成・身体活動量を統合的に評価し、フレイル予防と健康寿命延伸に資する新たな健康指標の確立を目指すものである。高齢者施設での縦断コホート研究を基盤に、地域住民の運動耐容能との関連解析や、大規模インターネット調査による加熱式たばこの影響評価を行っている。さらに、温泉療法を活用した介入研究を通じ、科学的根拠に基づく予防モデルの社会実装を推進している。

キーワード：呼吸筋力／体組成／筋厚／サルコペニア／フレイル／コホート研究／疫学解析／温泉療法
用途・応用分野：フレイル／健康寿命／医療機器

アピールポイント

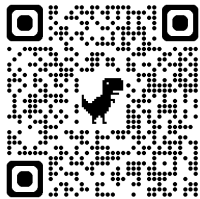
本研究の強みは、体組成・呼吸機能・呼吸筋力・下肢筋力・筋厚をポータルで一括評価できる統合的評価系を有する点にある。加えて、高齢者の実測データに基づくエビデンス創出、コホート設計・疫学解析など一貫して実施できる体制を備えている。

Successful Agingの実現を



体育学部 教授

横山 順一



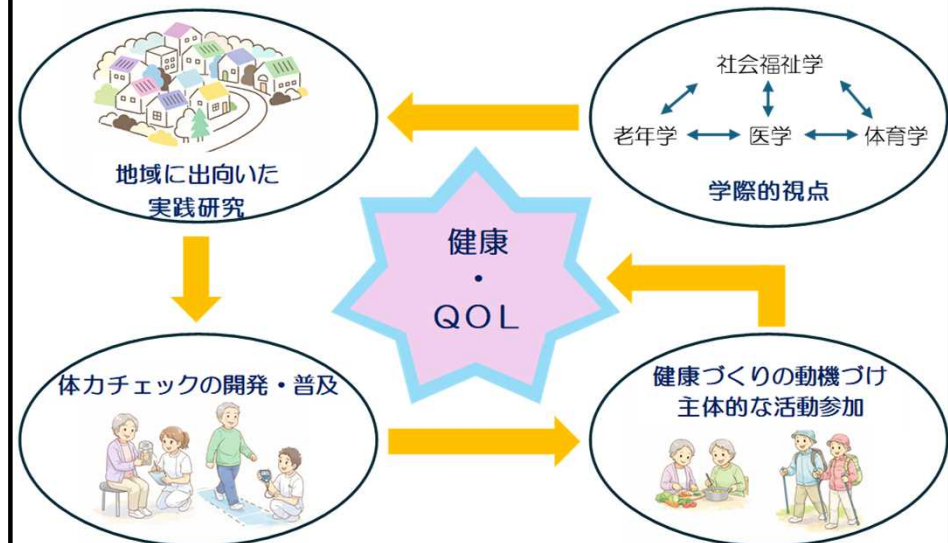
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

人生100年時代において、高齢者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられる社会の実現を目指し、地域に出向いた実践研究を展開しています。

社会福祉学・老年学・医学・体育学を横断する学際的視点から、高齢者の「健康」と「QOL」に着目。高齢期に特化した体力チェックの開発・普及を通じて、健康づくりへの動機づけを高め、地域での主体的な活動参加を促進します。

高齢者が住み慣れた地域で
その人らしく暮らし続けられる社会を目指して



人生100年時代の高齢者の健康支援に関する研究

キーワード：高齢者，健康寿命，QOL，生活習慣

用途・応用分野：社会福祉，介護予防

アピールポイント

地域に出向いて、高齢者一人ひとりの声に耳を傾け、現場から学ぶ姿勢を大切にしています。実践で得た知見を研究へ還元し、地域とともにより良い高齢社会の実現を目指しています。

健康の実態把握から実践提案へつなぐ！



体育学部 健康学科 助教

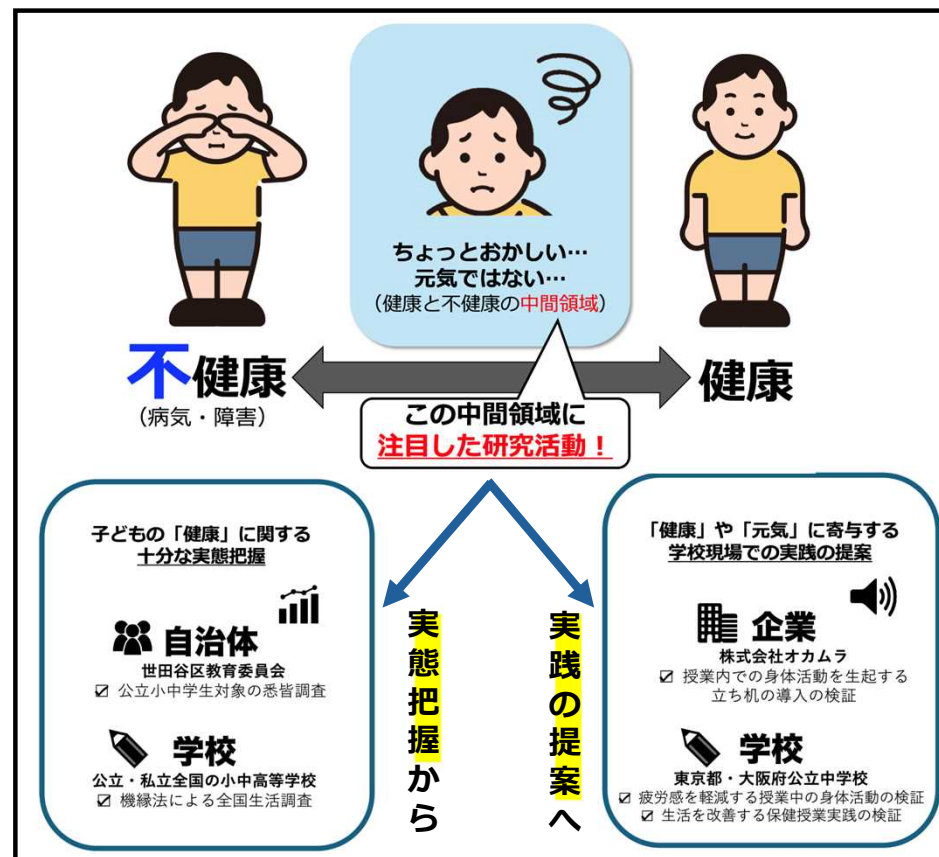
田中 良



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

子どもが抱える健康課題は多様化・深刻化し、常態化してまいります。例えば、3人に1人の子どもが疲労を訴えていて、年齢が高いほど疲労感は強いことが指摘され続けています。各健康課題が改善されなければ、学校や日常生活で有意義な時間を過ごすことも困難です。子どもが自他の課題を知るための「健康教育」や、課題を改善するための「学校環境」に注目して研究活動を進めています。



キーワード：子ども，保健科教育学，学校保健学

用途・応用分野：学校，学校環境，健康教育

アピールポイント

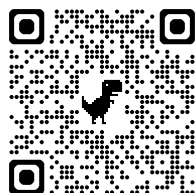
学校・教育現場とのコラボ企画だけでなく、企業や教育委員会とも共同研究を実施してきました。たくさんの方々や団体と子どものための仕事が一緒にできれば嬉しいです。

スポーツ・学校における危機管理研究



スポーツ文化学部 教授

南部 さおり



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

スポーツ活動や学校をはじめとした、子どもの学ぶ場では、安全安心で、活動や学びに没頭できる環境づくりが求められます。しかしながら現在、子どもを取り巻く環境は大きく変化を余儀なくされており、これまでの常識が通用しない場面も多く存在しています。とりわけハラスメントや人権侵害などの問題は、早急に解決すべき事項であるといえます。

本研究では、医学や法学、教育学など、分野横断的な学術的知見を応用し、様々な場面における危機管理体制を構築することを目的としています。



キーワード：危機管理、ハラスメント、事故防止
応用分野：教育、法学、政策学など

アピールポイント

複数の学問分野、とりわけ医学と法学の知見をバランスよく取り入れる危機管理研究は多くはない。今後益々の発展が見込まれ、現場への応用力、社会的なニーズも非常に高い研究領域である。

剣道を探求する



スポーツ文化学部 教授
副学長
学友会剣道部師範

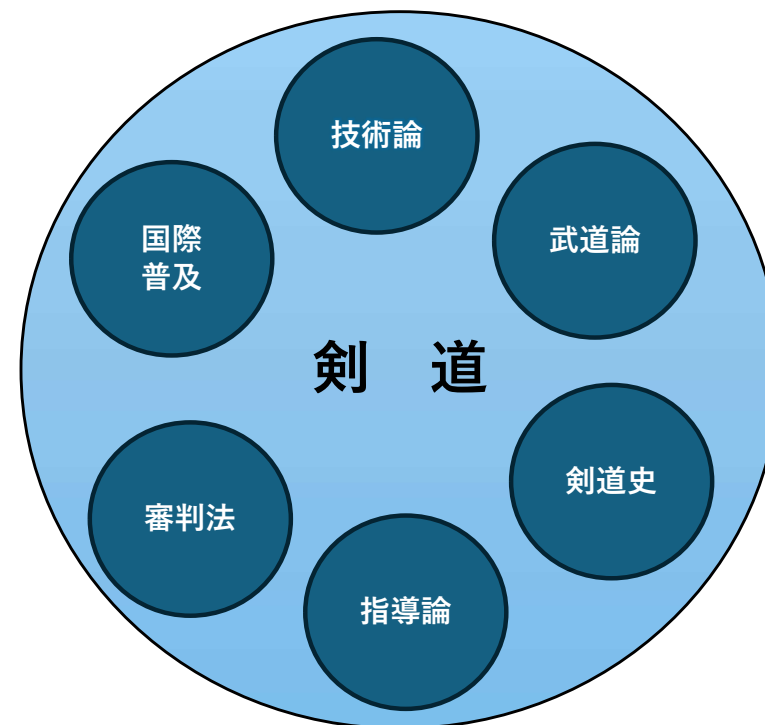
八木沢 誠



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

これまで剣道をテーマに様々な角度から研究を進めてきた。特に剣道の目的である「有効打突」を獲得するための技術論については、先人が遺した資料を基に現代剣道に即した内容にまとめることができた。また剣道において最も重視される「目付け」についても注視点の測定から得られた資料をもとに、競技者・審判員それぞれの立場から有効な目の付け所、働かせかたを明らかにすることができた。剣道は対人競技であるがゆえに絶対ということがなく、まだまだ興味は尽きないところである。



キーワード：剣道・武道・剣道史・目付け
用途・応用分野：剣道指導・剣道審判講習会

アピールポイント

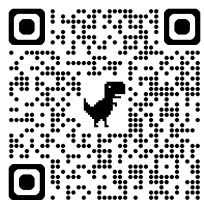
これまで日本国内にとどまらず、オーストラリア・フィンランド・スウェーデン・ハワイ・シンガポール・マレーシア・フィリピン・韓国・中国などで剣道指導の経験を持ち、世界に剣道仲間がいます。

橋渡し型研究者



スポーツ文化学部 准教授
少林寺拳法部部長

齋藤 雅英



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

身体教育学、教育心理学、臨床心理学を横断する立場から、スポーツ／運動教育・身体活動と発達障害・発達支援・特別支援教育、さらに心理学的アセスメントを組み合わせた研究に取り組んでいます。最近では、ADHDのある子どもの腸内細菌叢というテーマにも取り組んでおり、生理学／ライフサイエンス的な視点も取り入れつつ、発達支援と身体教育の融合を目指す研究を進めています。

① 発達支援・特別支援教育領域

発達障害児・幼児・ADHDなどを対象



② 身体運動／体育・スポーツ教育

運動指導／体罰比較／体育嫌い支援



③ 心理・生理アセスメント領域

腸内細菌／記憶・注意・催眠課題等

- ①→②→③という流れで、「発達支援の対象者」に対して、「身体運動・体育・スポーツ」を介入手段とし、その効果や適性を「心理／生理アセスメント」で測定・分析する——という統合的な研究アプローチ。
- 必要に応じて、国際比較・多国籍の調査、親支援プログラム、運動指導プログラム、保育・教育現場との連携、そして実践への応用も視野に入れている点が特徴

キーワード：教育臨床心理学・スポーツ心理学
用途・応用分野：学際研究・研究者間連携

アピールポイント

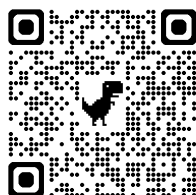
心理学・臨床心理学と体育・運動教育をつなぐ希少な「橋渡し型研究者」であり、心と身体の両面から子ども～成人の支援を捉えている点が強みです。最近では、生理学・神経科学的視点も取り入れた先進的かつ学際的な研究を展開しています。

体育教師教育と障害者スポーツ改善 に向けたシーズ形成



スポーツ文化学部 教授
学部長

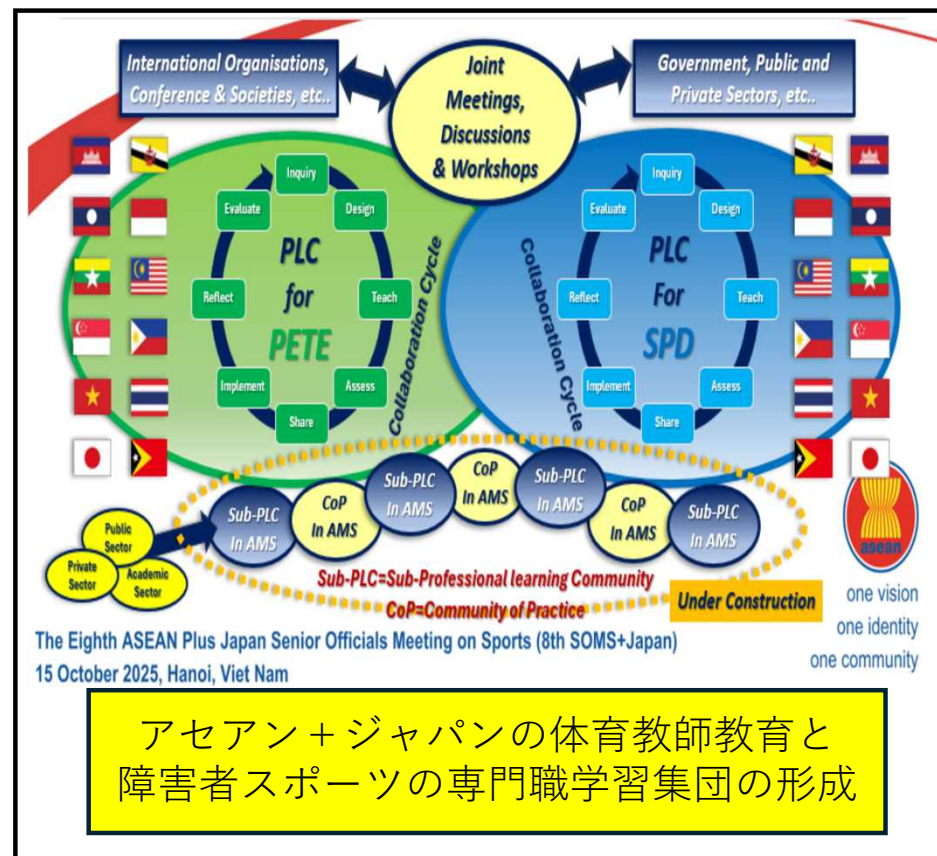
岡出 美則



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

包摂的で良質の体育授業の実現は、世界的な課題である一方、その実現には各国の文化的、社会的、歴史的背景を踏まえた対応が求められます。しかし、教育は各国で閉じた政策の中で展開されることが多く、そこで蓄積されている優れた知見やアイデアが国や行政の枠を超えて共有されにくい状況がみられます。本研究では、この共有化をアセアン並びに日本が共有し、それを発信していくことことを意図しています。



アセアン+ジャパンの体育教師教育と
障害者スポーツの専門職学習集団の形成

キーワード：良質の体育、体育教師教育、障害者スポーツ

用途・応用分野：教育、政策、国際協力

アピールポイント

アセアン各国が互いに学び合い、成長していく過程を支援することで、我が国の人材の育成も可能になっていくと考えています。

部活動の地域定着と系譜学・哲学



スポーツ文化学部 教授
社会連携センター長

波多腰 克晃



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

運動部活動の地域展開・定着において想定される課題は指導者不足以外に「他校の生徒と活動の理念を共有できるのか」、「運動部活動の教育的要素を維持すべきか」といった理念的な相違です。ドイツでは約150年前に類似した経験をしているため、これを系譜学的に研究してきました。現在はこの研究を踏まえて、“他者”について哲学的に検討しています。

勝ちにこだわるべきか！



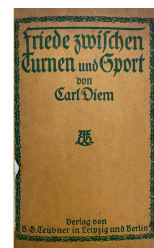
VS.



教育的価値を優先すべきか！



折衷論？



Carl Diem

『体育とスポーツの和解』



Eerke U. Hamer

『遊戯促進運動の萌芽』

理念・組織の融合？

他者について哲学に検討



スポーツを通じて他者理解を深める

キーワード：トウルネン、カール・ディーム、遊戯促進運動、ハンナ・アーレントなど

アピールポイント

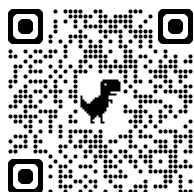
ドイツにおけるスポーツの地域展開は勝利至上主義を相対化し、独自の定着を成し遂げてきました。その過程には「対立・和解・解体・復興」の経験が含まれます。この経験を踏まえた哲学的考察は教育学との架け橋にもなり得ます。

英語および言語全般の機能語の多義語の解明



スポーツ文化学部スポーツ国際学科
教授

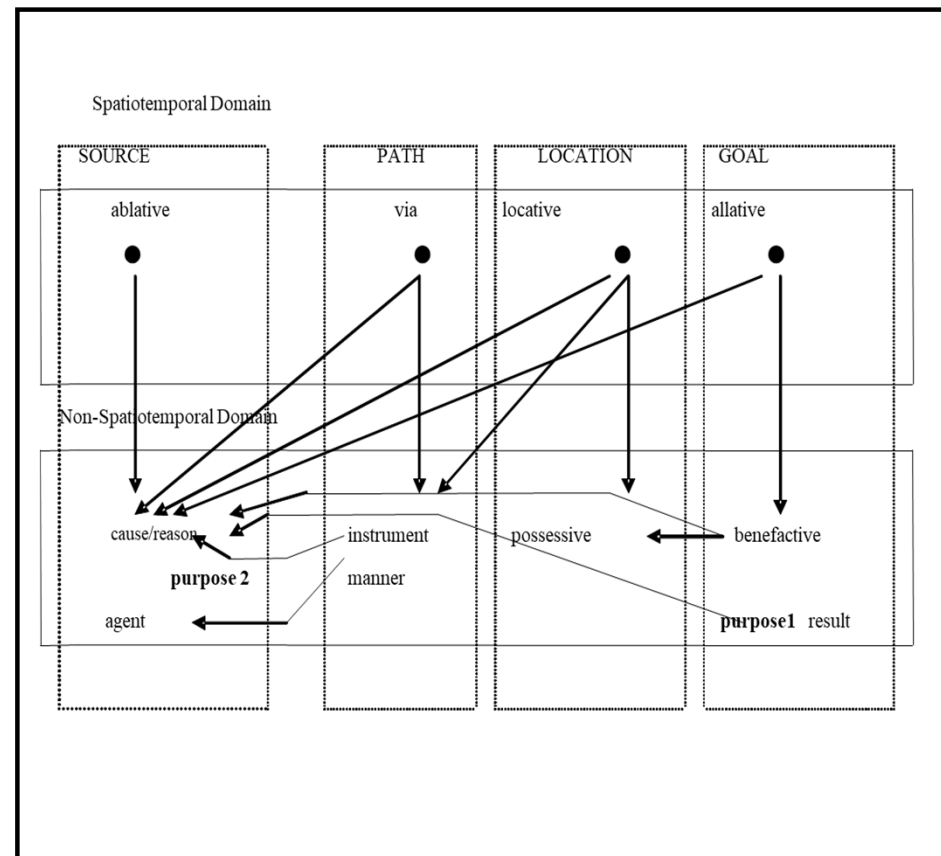
山口 和之



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

認知言語学・意味論研究, 類型論研究, 文法化研究に基づいた言語習得モデルの構築。またその知見を英語教育に役立てる。特に、右に示すような、言語の前置詞、格助詞などの機能語が示す意味変化の普遍的、言語個別的な意味変化パターンの解明を通して、上記の言語研究に貢献することを目指している。



キーワード：類型論、認知言語学、言語習得、意味論、意味変化、
用途・応用分野：英語教育（学習）

アピールポイント

言語学、特に認知言語学の知見に基づいた言語習得モデルの構築。またそれを英語教育に役立てる。

保健体育科教員の役割やイメージ



スポーツ文化学部 准教授
教職センター 副センター長

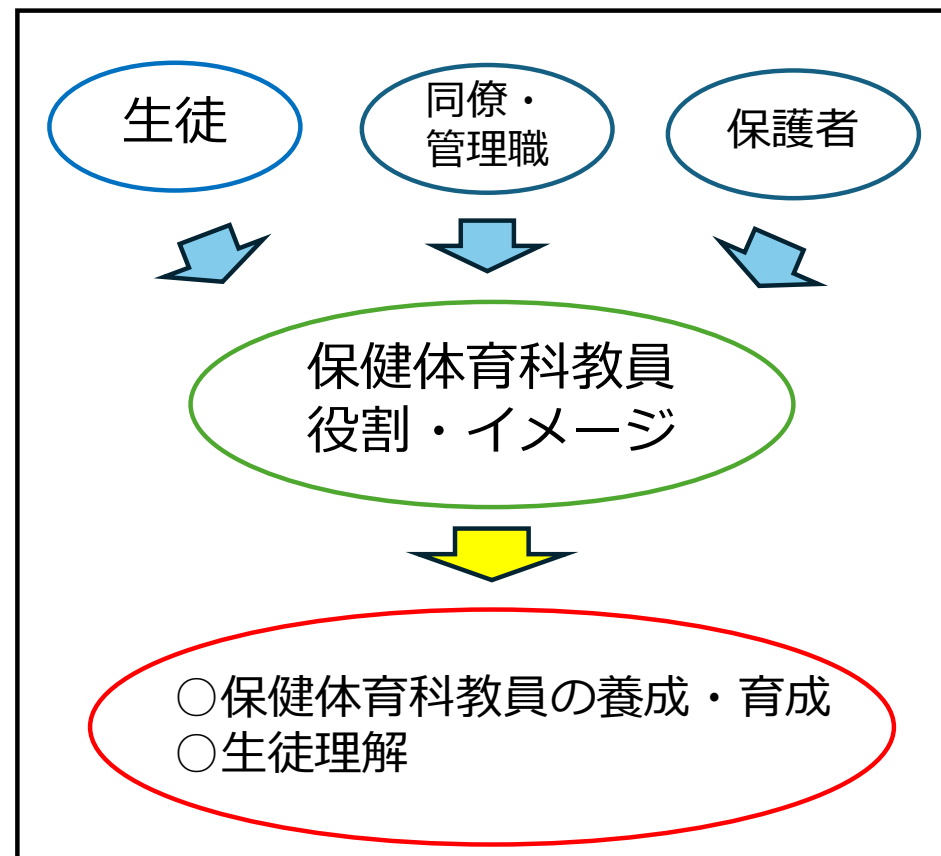
門屋 貴久



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

保健体育科教員に対し偏った役割期待（生徒指導・運動部活動）があるとされてきました。そして、保健体育科教員は他教科の教員と生徒などからのイメージが異なることも指摘されています。生徒などからの保健体育科教員に対するイメージを把握することは、今後の保健体育科教員養成や育成においても一助となり、生徒理解の一つの要素になると思います。



キーワード：体育教師教育、教員養成

用途・応用分野：保健体育科教員養成、運動部活動の地域展開

アピールポイント

今後の保健体育科教員に求められる役割や期待は少しずつ変化してきています。そのような観点から保健体育科教員の養成や育成を考える手助けができます。

子どもの心身の健康と大人の役割



スポーツ文化学部 スポーツ国際学科
准教授

寺岡 英晋



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

体育授業やスポーツ場面を含む教育現場において、教師・コーチのかかわり方や学習環境が、子どものモチベーション、信頼関係、ウェルビーイングにどのような影響を与えるのかを明らかにすることを研究テーマとしています。自己決定理論（Self-Determination Theory）を理論的基盤とし、授業・活動場面の観察、質問紙調査、インタビューを組み合わせた質的・量的研究を通して、子どもの心身の健康や主体的な学びを支える具体的な教育実践の特徴を可視化してきました。これらの知見は、学校体育にとどまらず、幼児教育、教員・指導者研修、国際協力における人材育成などにも応用可能です。



キーワード：スポーツ教育、情意（Affect）

用途・応用分野：授業改善、人材育成、国際協力

アピールポイント

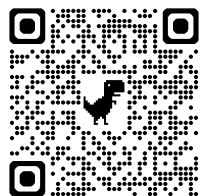
- 体育授業やスポーツ指導の質改善に直結する知見を提供
- 学校／地域／国際文脈における現場と協働した実装・検証型の共同研究に展開可能

スポーツを通して、社会の変化を読む



スポーツ文化学部 准教授

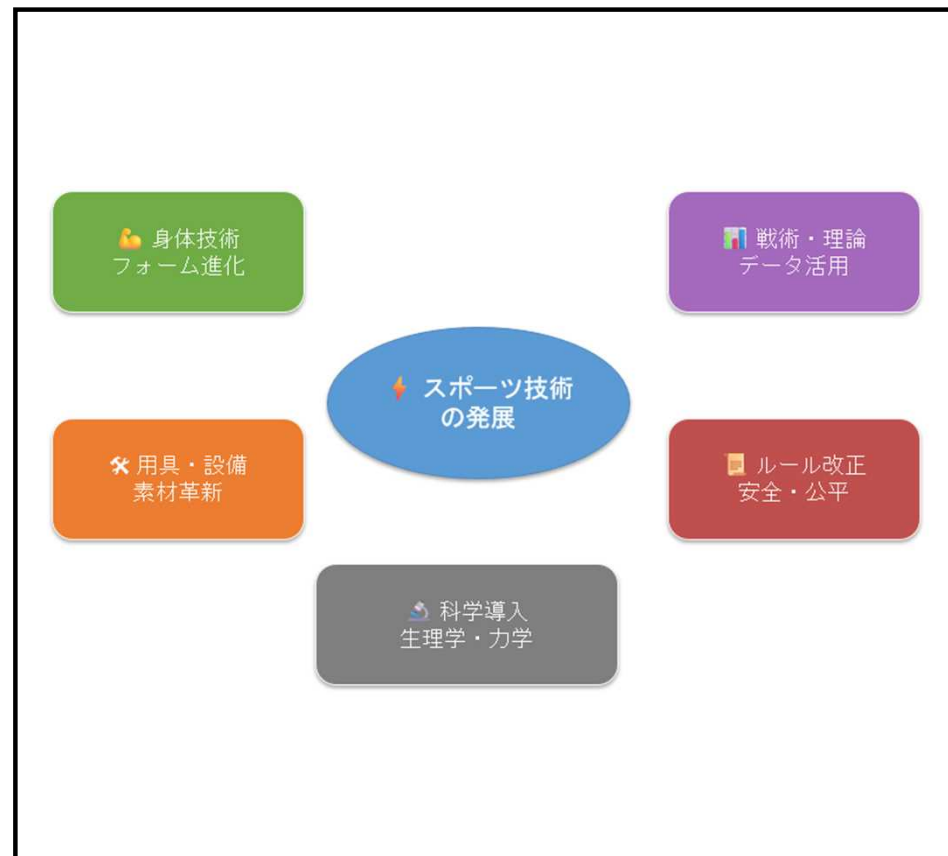
福井 元



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私が取り組んでいる、スポーツの歴史研究（スポーツ史）では、スポーツがどのように社会・政治・文化と関わりながら発展してきたかを明らかにしています。様々なスポーツ史研究がありますが、特にスポーツの技術史という研究を行っております。単に記録の羅列ではなく、戦術や用器具、トレーニング方法等が、どのように発展してきたのか、社会の変化等も鑑みて歴史的に研究しています。



キーワード：スポーツ史、技術史、スポーツ用品、記録、戦術

用途・応用分野：商品や施設等の開発

アピールポイント

スポーツの技術史以外にも、人物史、学校史等の研究も行っており、様々な分野についての調査方法についてもアドバイスすることが可能です。

対立を調和に変える（身体）文化： 北米先住民族球戯の機能と構造



スポーツ文化学部 准教授
学長室長補佐

松浪 登久馬



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

現代社会ではSNSなどの普及により利便性が高まる一方で、対面による身体的なコミュニケーションや、地域・組織内での実感に伴う「繋がり」が従前に比して希薄化しています。北米先住民族間で紛争解決手段として扱われた（伝統的）球戯を対象に民族誌を中心に調査し、単純な勝敗だけではない「紛争の解決手段」、「集団のアイデンティティ形成」、「心身の変容」としての（身体の）文化の機能と構造を解明することを目的としました。



キーワード：（スポーツを通じた）異文化理解
用途・応用分野：組織、教育

アピールポイント

歴史学と人類学に共通する文献調査のみならず、フィールドワークの感覚を持って、現実の社会と構成要因である人との対話の融合が必要と考えています。

観戦時に何を見て考えているか



スポーツマネジメント学部 教授
学部長

齊藤 隆志



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

人々はなにをどのようにスポーツ観戦しているのでしょうか。この疑問に答えるために私たちは観戦の認知能力を明らかにしました。

認知能力が明らかになったことで、試合中に観客や視聴者がなにを見て、なにを考えているかリサーチ可能となります。リサーチによりスーパープレイ、選手の表情などに対し観戦する人はシーン別にどのように理解しているかわかります。

観戦する人の期待に合わせたり、能力の高低（初心者やオタク）に合わせるなど、観戦する人の観点に応じたコンテンツ（動画や番組）制作が可能となります。また観戦を補助するコンテンツや、観戦能力を高める教材を開発可能です。

たとえばスポーツ動画・番組制作、eスポーツコンテンツ企画開発、観戦用IoT・ICT開発、みるスポーツ関連の体育教材開発、ジャーナリストや解説者向け専門教材開発への応用が期待できます。

キーワード：観戦認知能力

用途・応用分野：イベントプロデュース、動画制作、eスポーツ、観戦施設・設備、教材開発

アピールポイント

みるスポーツへの関心は高くなる一方ですが、コンテンツプロデュースにつながる研究は少ないのが現状です。この研究により、客観的データに基づいたコンテンツ開発が可能となります。

ヨーロッパの先駆的 スポーツマネジメントの応用



スポーツマネジメント学部 教授

日比野 幹生



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

ヨーロッパ地域では、スポーツに関連する先駆的なマネジメントが行われています。これらの取組の多くは、各国の政府系機関、民間スポーツ団体などによるスポーツ課題やそれに関連する社会課題の解決のための革新的なアプローチです。

本研究は、研究者のヨーロッパ地域のアクターとのネットワークを活かして、先駆的なスポーツマネジメントの実態を調査し、当該マネジメントの我が国スポーツ界への応用について検証することを目的に推進されています。

*対象国: 英国、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ポルトガル、スペイン ほか



【近年の主な研究課題】

デンマークのエリートスポーツ法の実装/フランスのエリートスポーツ施策（パリ五輪のレガシー）/スポーツイングランドのスポーツガバナンス/AISヨーロッパトレーニングセンターの効果/UEFAのダイバシティマネジメント/アーセナルのクラブマネジメント/FCバルセロナのクラブマネジメント

イタリアのソーシャルフットボール/フランクフルトの階層的スポーツクラブ文化/フランクフルトのホイルチェアマルチススポーツクラブ/リスボンのマルチススポーツクラブ/サンシーロススタジアムのセキュリティマネジメント/ホッフェンハイム・PreZero Arenaの環境マネジメント ほか

キーワード：ヨーロッパ スポーツマネジメント、革新的アプローチ
用途・応用分野：スポーツ機関・団体のマネジメント

アピールポイント

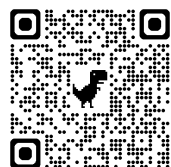
新たな政策・施策・事業を立案・実施しようとしている我が国の政府・地方自治体、競技団体、プロ・地域スポーツクラブなどに、ヨーロッパの先駆的知見を活用してコンサルテーションを行っています。

スポーツ環境整備を「補助」から「投資」へ



スポーツマネジメント学部 教授
アスレティック部門長補佐

横田 匡俊

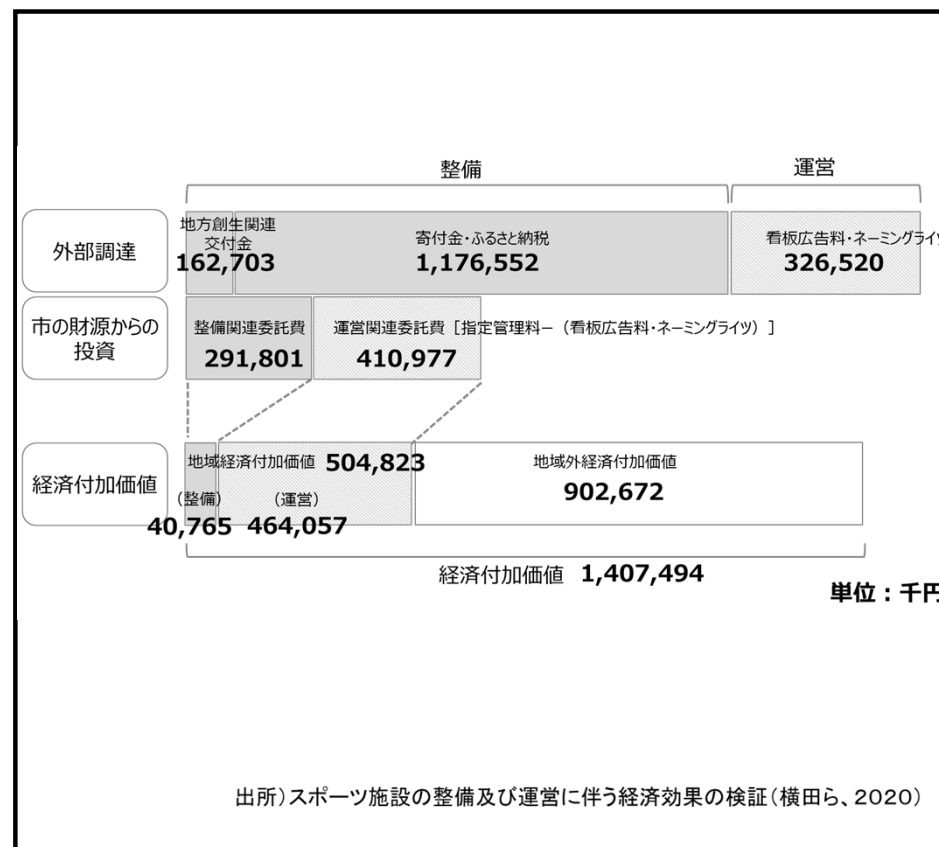


主な経歴・業績

2020年度日本スポーツ産業学会 学会賞
スポーツ庁技術専門委員（民間スポーツ担当、
国際課、政策課）

研究概要

いわゆる経済効果は、イベント等による全体的に増加した需要を幅広くとらえるため、多くの人にとってはあまり実感を伴わない数字になります。一方、「地域付加価値創造分析」は、特定の事業によって地域内に「新たに発生したキャッシュ」を可視化する分析手法です。例えば、自治体がスポーツ施設を整備し、20年間運営することによって、当該自治体内に新たに発生するキャッシュ（経済付加価値）を算出できます。リアルなキャッシュを計算するので、経済効果とは説得力が違いますし、20年後の確実なリターンを可視化できるので、関連する様々な事業を戦略的に展開する、つまり、公的な事業であっても「投資」としてとらえ、地域内に経済的な恩恵をもたらすことが可能となります。



キーワード：経済効果、地域付加価値創造分析
用途・応用分野：政策評価、事業評価、事業改善

アピールポイント

【自治体にとって】

- ・スポーツ関連事業の根拠や妥当性を示すことができる
- ・適切な投資によって既存事業を慶全することができる

【民間企業やプロスポーツチーム】

- ・自らの活動による地域経済への貢献をアピールできる

データに基づく集客戦略



スポーツマネジメント学部 助教
アスレティック部門
マーケティング部門 副部門長

清宮 孝文



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私たちは、プロスポーツ観戦者に着目し、来場行動や意思決定プロセスについて分析を行っている。これまでの研究では、イベント施策や開催場所、テクノロジー活用、地域連携などが観戦意向や来場満足度に与える影響を明らかにしてきた。今後はこれらの成果を活用し、プロスポーツの集客力向上や収益拡大につながる実践的な戦略モデルの構築を目指している。

プロスポーツ観戦の集客力向上

イベント施策



地域連携



テクノロジー



スタジアム・立地



キーワード：プロスポーツ, ファン行動, データ分析
用途・応用分野：集客戦略, 収益拡大

アピールポイント

これまで、プロ野球(NPB), Bリーグ, リーグワン, SVリーグ, Fリーグ, リーグワンなど、多様な競技を対象に観戦者調査を実施してきた。各競技の特性やターゲット層のねらいに基づき、効果的な集客施策の提案が可能である。

外国人観光客と住民をつなぐ心のメカニズム



スポーツマネジメント学部 特任助教

荻間 英樹



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私の研究テーマは、「観光地に住む人々が、外国人観光客をどう感じているか」です。近年、街中で外国人観光客を見かける機会が増えました。その時、地元の方々は彼らにどのようなイメージを抱くのでしょうか。「異文化交流ができて楽しい」と感じる人もいれば、「マナーが心配」「言葉が通じなくて不安」と感じる人もいるかもしれません。実は、私たちが心の中で抱こうとした「イメージ」や「印象」は、実際の行動を大きく左右します。良い印象があれば「道案内をしよう」と積極的になれるし、逆に不安が強ければ、目を合わせずに避けてしまうかもしれません。私は、こうした住民の心の動きと行動の関係を調査しています。この研究を通じて、観光客にとっても、迎える住民にとっても、無理なく心地よい関係が築けるような地域づくりのヒントを探っています。また他にも、スキー場の気候変動対策に関する研究も行っています。



外国人観光客の来訪



住民の心のなか（イメージ・印象）

ポジティブな
イメージ

ネガティブな
イメージ

異文化交流が
楽しい！

マナーや言葉
が不安・・・

実際の行動

親切にする
道案内・交流

避ける
目を合わせない

無理のない、持続可能な地域づくりを探る研究です！

キーワード：観光，スキー場，持続可能性，経営
用途・応用分野：スキー場経営，観光地経営

アピールポイント

スキー場や観光地が将来にわたって続くには、雪や自然を守ることと同様に、迎える住民が無理なく観光客を受け入れ続けられること（社会的な持続可能性）が不可欠です。外国人観光客との摩擦を減らし、地域全体が「観光を受け入れてよかった」と思えるような、持続可能な地域づくりのポイントをお話しします。

オンザジョブにおけるコーチ育成と組織風土の探求



スポーツマネジメント学部 特任助教

矢野 広明



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

指導者は日々の指導実践（オンザジョブ）の中で多くの気づきを得ていますが、その学びのプロセスは個人や組織の状況に大きく依存します。現場において、育成する側がいかなる働きかけ（メソッド）を行えば、指導者の学びが最大化されるのか。そのメカニズムの解明に取り組んでいます。また、指導者が孤立せず成長するためには、チーム全体の風土も重要です。大学スポーツ等を対象に、メンバーのフォロワーシップが組織文化に与える影響についても検証を進め、人と組織が共に育つ環境デザインの提案を目指しています。



1on1 MTG



OJT

コーチ育成
(OJT・介入・省察支援)

組織風土の醸成
(リーダー/フォロワーシップ)



セミナー



アンケート調査

キーワード：

コーチ育成、OJT、組織風土、フォロワーシップ

用途・応用分野：

- ・ 指導者養成カリキュラム開発
- ・ 企業内人材育成・管理職研修
- ・ チームビルディング

アピールポイント

現場経験や人間関係がもたらす「学び」のプロセスを重視しています。人が自律的に育つ組織風土を探求し、より良い育成環境づくりへの貢献を目指します。

アスリートの“こころ”をみつめる



スポーツマネジメント学部 教授

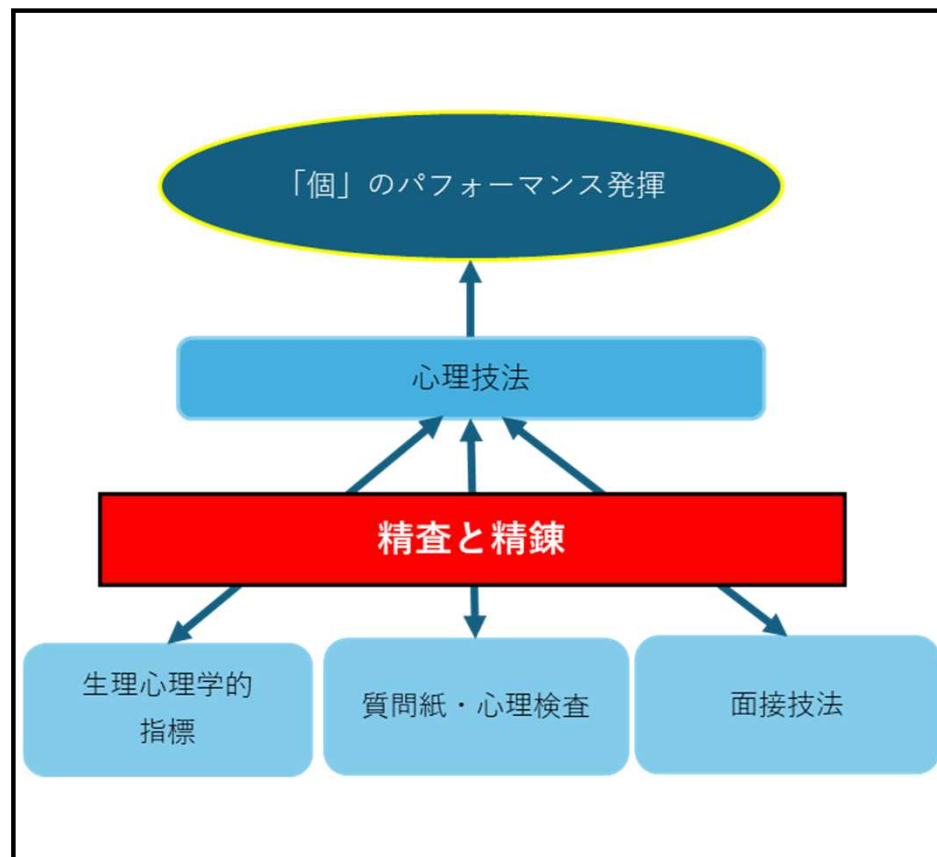
三村 覚



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

アスリート、コーチ、スタッフに対してより効果的な心理サポート実践を目指した研究をしています。具体的にはリラクゼーション技法である自律訓練法に関する研究、呼吸運動と心理過程に関する研究、エゴグラム（交流分析）のスポーツ場面への応用するための研究などです。



キーワード：アスリートへの心理学的介入，自律訓練法，催眠技法，生理心理学的指標，エゴグラム

用途・応用分野：メンタルマネジメント

アピールポイント

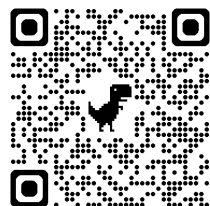
パフォーマンス向上の基本は、体力と技術と考えています。個人の持つ能力を十分に発揮できるよう、これまでに得られた知見をもとに、テーラーメイドな心理サポートの実践を目指しています。

女子の理科への意欲を高める教育モデル



児童スポーツ教育学部 教授
児童スポーツ教育学科長

稲田 結美



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

日本では理工系分野に進む女子が依然として少ない状況が続いています。女子の理数系能力は国際調査で高いことが示されている一方で、中学生段階で理科への苦手意識や理工系進路選択への不安が高まることが一因と考えられます。

女子の興味や自信を高める理科授業モデルを開発し、学校現場で導入可能な授業づくりの視点と指針を整理して、理工系分野のジェンダーギャップ解消を目指します。

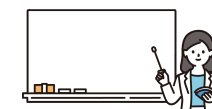
女子の理科離れ・理工系進路選択の忌避の要因分析

- 女子特有要因の分析、児童・生徒の意識・授業分析



現状を打開する方策の開発

- 海外の好事例の参照
- キャリア教育の視点の導入



中学校理科授業における実践と評価

- 授業（指導方法、教材・教具、実験環境等）への介入・評価



理工系分野のジェンダーギャップ解消

「女子の理科への意欲を高める教育モデルの開発」の進行イメージ

キーワード：女子、理工系進路選択、ジェンダー
用途・応用分野：教育、STEM領域

アピールポイント

女子特有の要因を分析し、キャリア教育の視点を取り入れた理科授業の改善枠組みを構築します。さらに、教師が応用可能な授業開発の原理を示し、持続的な授業改善につなげます。

012歳児 空間が保育をサポートします



児童スポーツ教育学部 教授

齊藤 多江子



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

3歳未満児クラスの子どもたちが、落ち着いて遊ぶことができたり、安心して過ごすことができる保育室の空間構成の研究をしています。空間構成の仕方によって、子どもたちの動きが変わり、保育のしやすさも変わります。



保育室の環境によって保育は変わる

好きな遊びをじっくり楽しむ



自分で遊びを選び、
落ち着いて
遊びこめる環境



友だちの姿が自然
と目に入り、関わり
が生まれる環境

友だちの遊びに興味をもつ

保育室の環境構成を提案します

クラスの「いま」と保育者の「願い」をつなぐ環境づくり

キーワード：3歳未満児・保育室・遊び・安心・安全

用途・応用分野：保育の質向上・事故防止

保育者のストレス軽減

アピールポイント

子どもの行動を分析し、「つい走りたくなる空間」を「落ち着いて遊びたくなる空間」へ変える物理的な仕掛けを提案します。子どもが落ち着いて過ごせることで、事故を防ぎ、子どもの探索意欲を引き出すことができます。

「記述中」に着目した作文指導法の開発



児童スポーツ教育学部 教授

杉本 直美



主な経歴・業績
researchmap

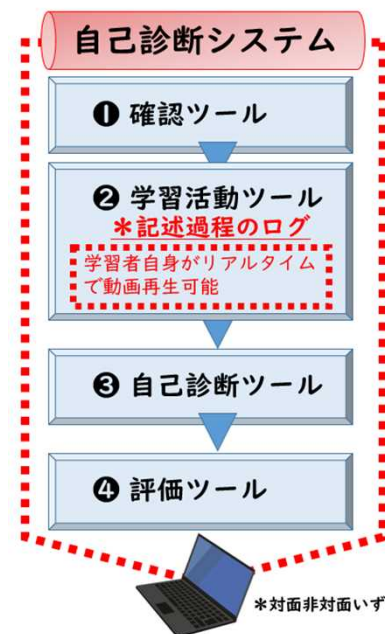
研究概要

作文指導の研究を進めています。特に、学習者が記述している最中の指導は重要と認識されつつも、実際には学習者個々に任されている現状があり、これを改善したいと考えています。現在、ICTを活用し、自分の書きぶりを動画でリアルタイムに確認しながら文章を記述・推敲・改善できるシステムを開発中です。学習者個々の書く能力の伸長を目指すとともに、授業における教師の指導の効率化も視野に入れています。

ICTを用いて学習者の「記述中」を可視化・自分のペースで学習可能な「自己診断システム」

【学習過程を踏まえた4段階】

- 既習のスキル等を質問形式でチェック →
- 用意された機能を使用しつつ、画面上の用紙に文章を記述→
- ログを動画再生しながら、自身の記述過程を診断 →
- 評価の観点を踏まえた内容を質問形式でチェック →



キーワード：作文指導、ICT活用、個別最適
用途・応用分野：教科書、副教材、CBT調査、
自学自習教材、社会人講座

アピールポイント

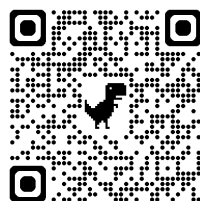
本研究で開発した「自己診断システム」（上図参照）及び設定した学習過程や考え方は、教科書教材（特に「学習過程・学習方法の提示」や「学習の手引き」）や、実際の書く力を評価するCBT調査、社会人の書き方講座等に応用可能です。

スポーツ科学で支える女性のパフォーマンス



児童スポーツ学部 教授
学部長

須永 美歌子



主な経歴・業績
researchmap



女性アスリート
競技力向上
プロジェクト

研究概要

われわれの研究室では、女性のからだの特性をふまえたコンディショニング（運動・栄養戦略）の開発や、健康課題の解決をめざした研究に取り組んでいます。女性は月経周期・妊娠・更年期などライフステージによって女性ホルモンが大きく変動します。このホルモンの波を活かし、個々の状態に合わせた体調管理やパフォーマンス向上につながるエビデンスを創出しています。

運動生理学やトレーニング科学を基盤にした実践的な教育プログラムの開発も進めています。

女性のからだの特性を考慮した製品・サービス開発に科学的知見を提供します



- ・フェムケア／スポーツ分野をつなぐ実証研究
- ・ホルモン動態データに基づく安全性・効果検証
- ・女性の健康教育プログラム展開

キーワード：女性ホルモン、月経周期、脂質代謝、筋機能、プレコンセプションケア

用途・応用分野：食品、医薬、教育など

アピールポイント

男性と女性では、運動生理反応や栄養摂取反応が異なります。本研究室では、ホルモン動態データに基づく安全性・効果検証が可能です。女性特有の生理的変動を考慮した製品・サービス開発に科学的知見を提供します。

社会認識形成の解明や支援



児童スポーツ教育学部 教授
大学院教育学研究科(博士課程)

田口 紘子

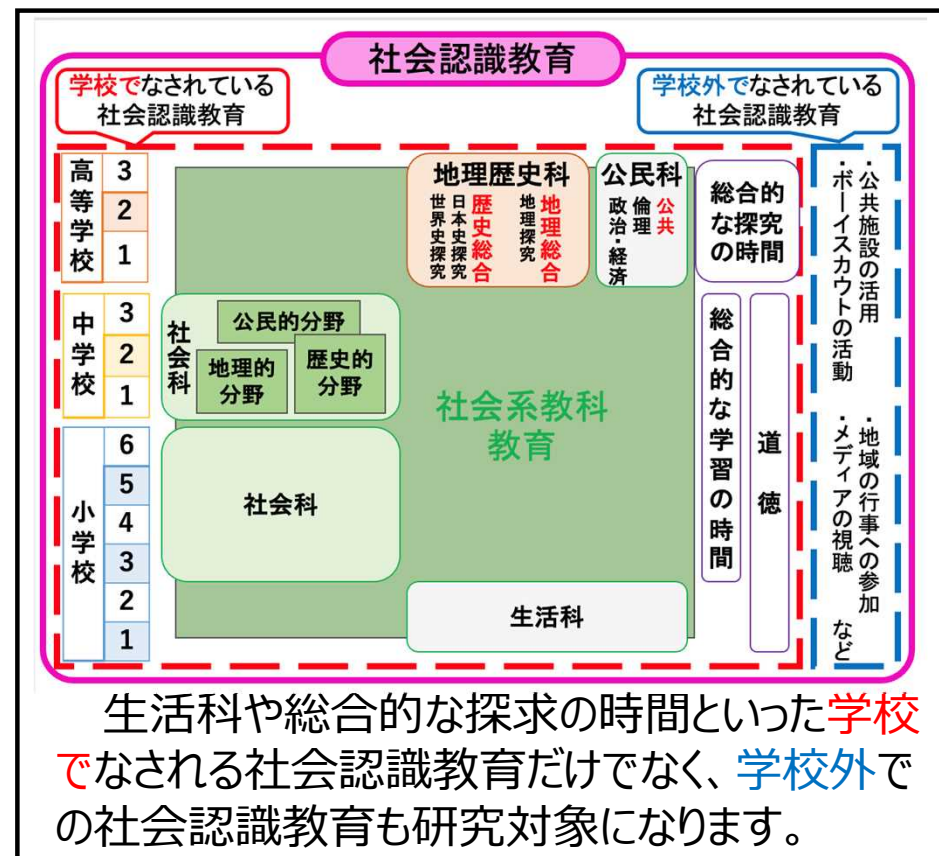


主な経歴・業績
researchmap

研究概要

人間が集まると、目に見えたり、見えにくかったりもしますが、ルールや文化などがつくられ、社会がかたちづくられていきます。

自身が所属する社会だけでなく、**他所の社会（地理）**や**過去の社会（歴史）**も含め、私たちはどのように社会を理解しているのでしょうか？私たちは他者に、どのように社会を理解してほしいと思っているのでしょうか？それらを明らかにしようとするのが社会認識教育の研究です。



キーワード：社会認識、歴史認識、地理認識
用途・応用分野：教育

アピールポイント

現代社会の理解を、無意識に過去社会の理解に援用するなど、様々な社会認識形成があります。学校での社会系教科の**授業研究**だけでなく、活字メディアや展示物などで形成される社会認識の分析・改善等で協働したいです。

ピアノ表現の可能性を探る！



児童スポーツ教育学部 教授

中島 龍一



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

①ピアノ表現の可能性を探る

オーケストラ作品、協奏曲、宗教曲等をピアノ・ソロで演奏できる編曲法の確立、楽譜の出版

②幼児から初等までの音楽表現法研究

子どもと関わる時に、音楽をツールとしてどのようにして用いるかの研究、テキストの出版

③音楽療育研究

特性のある子どもに、音楽を用いた、心へのアプローチ方法の研究

『ピアノを弾く楽しみ・ピアノを弾く喜び』を提供します！

『音楽教育・音楽療育』にも使えるテキストや楽譜集を共同音楽出版社と協議し刊行！



様々な音楽をピアノで簡単に弾けるようにしたドラゴン・シリーズ
現在40巻！



やさしいシリーズ CD音源



音楽教育・音楽療育で使える
楽譜集

キーワード：ピアノ、編曲、作曲

応用分野：子どもの表現、音楽科教育、音楽療育

アピールポイント

音楽は水のように浸透性があり、心の奥にも深く入り込んでいきます。

その魔法のような音楽を様々な角度から捉え、それぞれに合った媒体として提供します！

人間としてより善く生きることを追求する



児童スポーツ教育学部 准教授

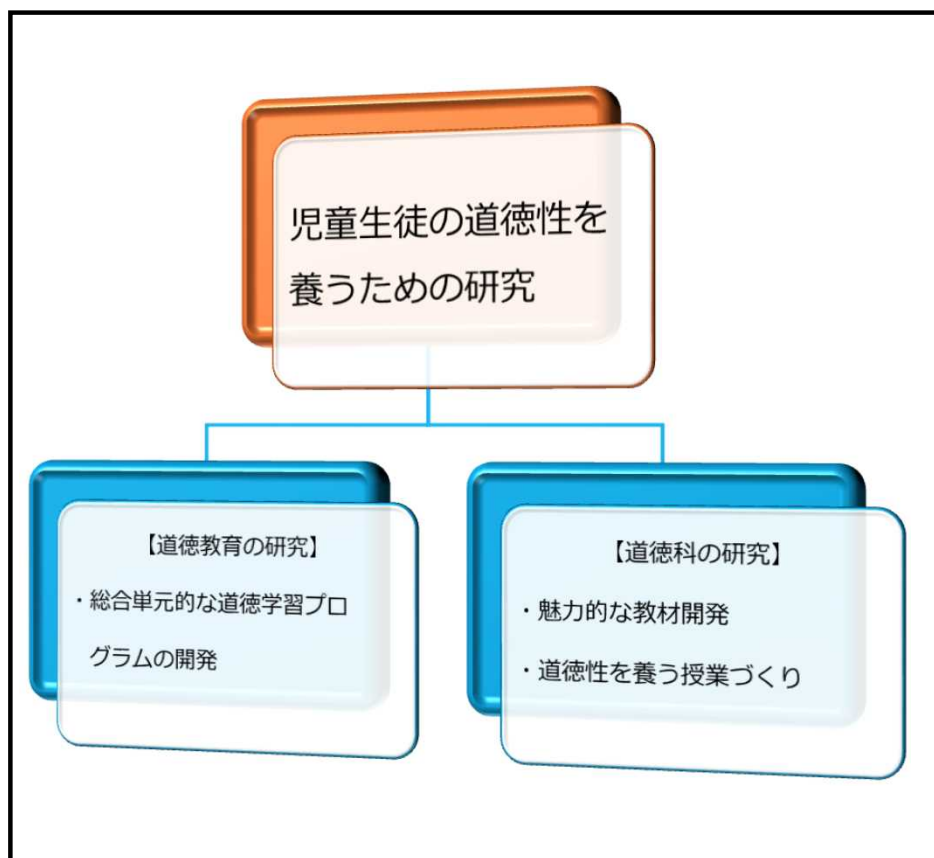
門脇 大輔



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

児童生徒の道徳性を養うための取組について研究しています。研究内容は、主に道徳教育の研究、道徳科の研究の2つを行っています。道徳教育の研究においては、学校の教育活動全てを通して、どのように児童生徒の心を育てるのかについて、その実践的取組を研究しています。道徳科の研究においては、道徳授業の充実のための教材開発、授業づくりについて研究をしています。



キーワード：道徳教育、道徳科

用途・応用分野：

アピールポイント

いつの時代においても、「どう生きるか」は不易の問いだと考えます。人間としてより善く生きるために大切なことは何かを追求していくことは、自己の人生についての考えを深めることにつながります。

多様な遊びが経験できる保育環境を提案します



児童スポーツ教育学部 准教授

河田 聖良



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

子どもたちが、興味関心をもって自ら遊びだしたくなるような保育環境や保育者の援助について研究をしています。



子どもの知的好奇心・探究心をくすぐる空間づくりやはたらきかけは、豊かな心と健やかな体の育ちを支えます。

素材・空間によって遊びやかかわりが変わる

全身を動かして遊んだり、
自然物やモノをつかって
遊んだり、集団のかかわり
が生まれる環境

保育室、廊下、ホール等の空間をつかって、
友達の様子・動きを感じながら遊ぶ



園庭、テラス等の空間をつかって、
友達や保育者と一緒に
跳んだり投げたり走ったりして遊ぶ



つくったもので遊んだり、
遊びと遊びがつながったり、
多様な遊びが生まれる環境

屋内や屋外の遊びの素材・環境構成を工夫します

子どもの「やりたい」と保育者の「ねらい」が共存する環境づくり

キーワード： 乳幼児・運動遊び・環境・安全

用途・応用分野： 保育者の資質向上・ 発達発達
体づくり・事故防止など

アピールポイント

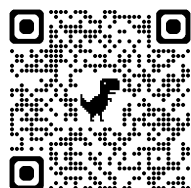
子どもの遊びや動きを分析し、運動意欲を引き出す遊びの素材・仕掛けを提案します。人的・物的な環境の工夫が、子どもの遊びや動きだけでなく、友達や保育者とのかかわりも変えていきます。また、多様な動きの経験は大きな怪我や事故を防ぐことにもつながっていきます。

すべての子どものための運動指導 / 教材開発 / 授業づくり



児童スポーツ教育学部 准教授

鈴木 康介



主な経歴・業績
researchmap



NSSU_PEAKS_SUZUKI

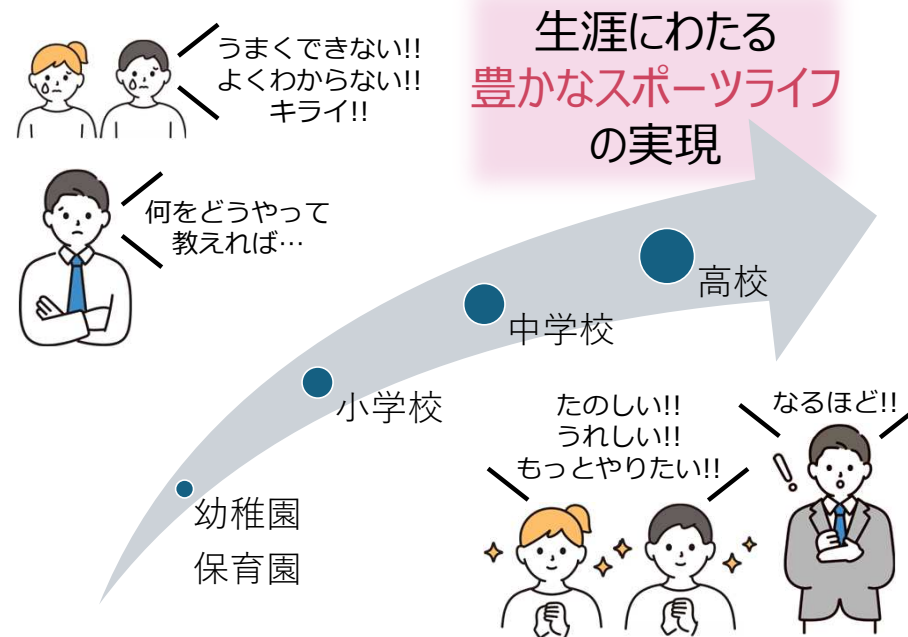
ゼミ活動

研究概要

学校体育においては、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」が目指されています。そのためには幼少期より発達段階に応じて適切な運動機会が保障されていることが大切であり、そうした中で運動の楽しさを知ることが子どもにとって最も重要です。しかし、体育授業においては、教えることが難しいもの、子どもが嫌うもの、教えるべきことが精査されていないもの等があるほか、運動が苦手な身体活動を避ける傾向にある子どももたくさんいます。こうした事象を見つめ、子どもの目線に立って、教え学ばれるべき内容とその指導方法を実践的に検証し、真に現場に資する知見を追究しています。

またゼミではこれらの知見を直接子ども達に還元するための活動を行っています。

子どもにとっての楽しさを第1に考え、その障壁となる事象の具体的な解決をします



キーワード：体育・教材/授業づくり・運動指導
用途・応用分野：体力向上・教師教育・用具開発

アピールポイント

色々な教育/保育機関（保育園・幼稚園・学校）・団体・自治体など、子どもに関わる方々が抱えている子どもの運動・動きの悩みごとを直接解決する活動を多く実施しています。運動教室やスポーツイベント、講演会、研修会などお気軽にご相談ください。

数学的探究を促進するための教材開発



児童スポーツ教育学部 助教
教育学研究科（博士課程研究指導教員）

村田 翔吾
Shogo MURATA



主な経歴・業績
Researchmap



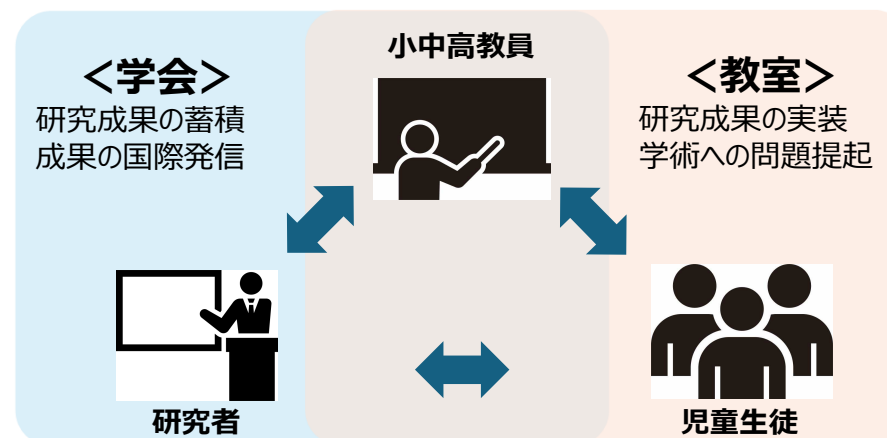
主著『算数・数学教育に
おける定義指導の改善』

研究概要

私の研究室では、現職の先生方と協力をして、児童・生徒が算数・数学の世界の探究活動に取り組み、「算数・数学って面白い!」と感じることができるような教材の開発と実践を行っています。

数学の根幹である定義や証明に焦点を当てることで、数学的探究を通して児童・生徒が定義（用語の意味）や証明（説明）の意義を実感できるような、教材のあり方を明らかにする研究を進めています。

数学的探究を促進する方法を 理論的・実践的に解明



- 数学的探究の方法の理論的考察
- 定義活動／証明活動の授業実践
- 定義活動を促進する教材開発原理

キーワード：数学的探究、定義活動、証明活動
用途・応用分野：教員養成・現職教育・科学教育

アピールポイント

教科教育研究において、教材は中核的な役割を果たしますが、教材研究や教材開発のあり方の解明は未だ研究の途上にあります。数学教育研究は国際的にも研究が活発な領域であるため、学術的な理論に裏付けられながらも、教室での実践に役立つような教材開発研究を進めています。

「ほねつぎ」を記録する・柔道を考える



保健医療学部 整復医療学科（教授）

稲川 郁子



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

①熟達柔道整復師に関する研究

熟達の領域に至った柔道整復師(ほねつぎ)について「修羅場の経験」などをキーワードとし、人文科学的に記録(アーカイブ)する研究を行っています。

②柔道に関する研究

柔道に関する諸問題のうち、特に女性の生涯柔道、形、大会救護、嘉納思想を視座とした多角的な研究を行っています。

①柔整：熟達柔道整復師の「語り」アーカイブ化の試み



稲川郁子『骨を接ぐ者 柔道整復師ほねつぎ論』ナカニシヤ出版、2020年

②柔道：学童と保護者へのアウトリーチ活動



キーワード：柔道整復師、熟達化、柔道
応用分野：教育学、社会学

アピールポイント

- ①熟達の領域に達した柔整師など専門職の deep smart や暗黙知の可視化・言語化による保存。
- ②柔道は武術と個人の思想が邂逅、昇華した奇跡の身体文化。多角的な現代的意義の考察。

アスレティックトレーニングの世界



保健医療学部 教授（整復医療学科長）
アスレティックトレーニングセンター長

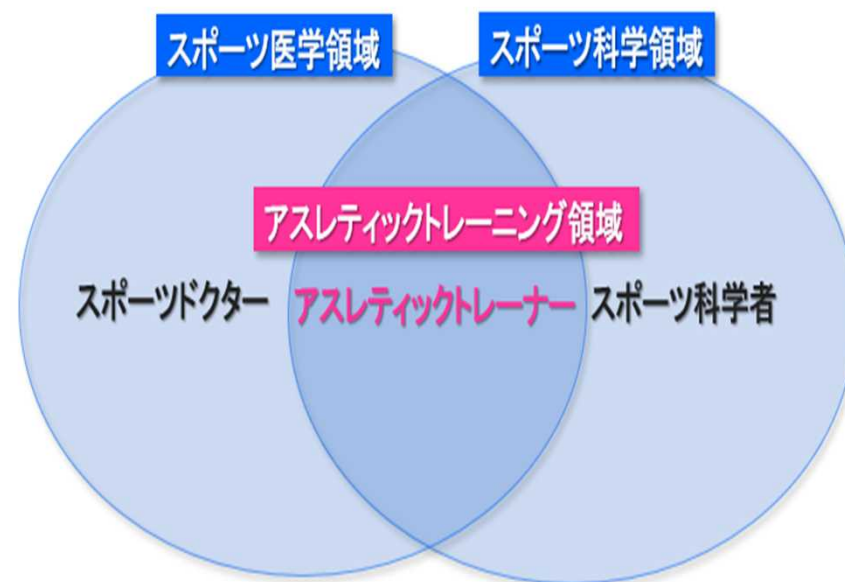
河野 徳良



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

アスレティックトレーニングとは、アスレティックトレーナーの学問的・職業的領域のことです。アスレティックトレーナーの業務遂行に必要な知識を理解し、コンディショニング、スポーツ外傷・障害の予防及び再発防止、スポーツ動作、EAP（緊急時対応計画）など多様な事項を学術的視点からアスレティックトレーニング学として研究を行います。



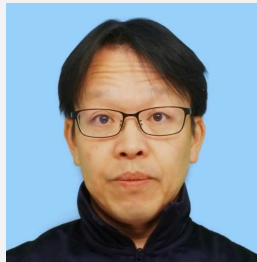
キーワード：コンディショニング、スポーツ外傷
・ 障害予防、投球動作、EAP

用途・応用分野：アスレティックトレーニング

アピールポイント

長年、スポーツ現場（特に野球）で活動してきました。現場でしか感じることができない課題を見つけ、現場指導に還元できることを第一と考えています。

不良姿勢を改善するシーズの探索



保健医療学部 教授

小山 浩司



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私共は子どもの不良姿勢、特に猫背の改善を目的とした座面が前方へ傾斜した椅子を開発しました（写真）。

座面を前方に傾斜させることで骨盤が自然に前傾し、脊柱の生理的弯曲が保たれます。この椅子は日常生活や学校の授業中など、長時間の座位が続く場面での使用を想定しています。また、姿勢の改善に伴う呼吸機能や体力テストへの影響も同時に評価することが可能であり、椅子の使用が子どもの身体機能全般に与える効果を多角的に明らかにすることができます。

不良姿勢の子ども、大人



脊柱アライメント・呼吸機能などの評価



座位姿勢が崩れない



不良姿勢の改善

キーワード：姿勢改善、猫背、座位姿勢

用途・応用分野：学校用家具、リハビリなど

アピールポイント

座面を前傾させるだけで骨盤が自然に起き上がり、特別な意識なく良好な姿勢を保てる点が最大の特長です。子どもだけでなく、大人もオフィスや家庭など様々な場面で使用することができます。また、不良姿勢からくる腰痛など体の不調を抱える方のリハビリにも役立てることができます。

扁平足の構造と機能を探る



保健医療学部 教授

白石 聖



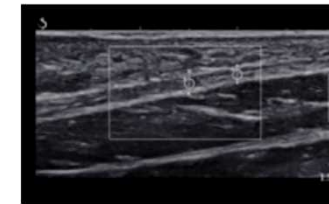
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

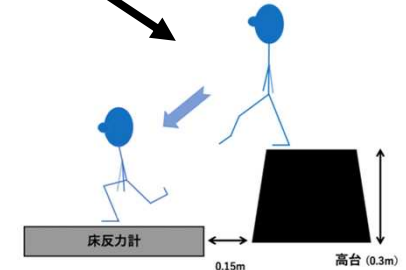
扁平足は、スポーツパフォーマンの低下や脚や足の外傷の発生要因の一つとされています。

私たちは、超音波診断装置などの非侵襲的測定器を用いて足底腱膜や筋などの構造的特徴と、パフォーマンス測定を組み合わせた研究を行うことが可能です。

扁平足などのアライメント異常



構造の評価



機能評価

機能低下や傷害の発生を予防する運動方法や運動用品の開発

キーワード：扁平足、歩容、運動器機能

用途・応用分野：靴、リハビリテーション

アピールポイント

扁平足の測定や評価の方法は様々ですが、私たちが採用している方法は、世界的な基準である足病医学（Podiatric Medicine）に準じております。

筋機能を向上するシーズの探索

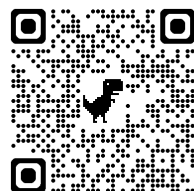


保健医療学部 教授
副学長（研究担当）、体育研究所所長

中里 浩一



主な経歴・業績
researchmap



研究室HP

研究概要

私共は小動物（マウスやラットなど）を対象に筋力や筋持久力測定および筋損傷や筋力トレーニング導入が可能な実験系を作成しました（写真）。

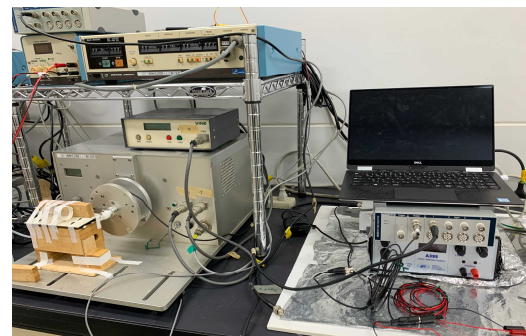
この実験系を使えば様々な食品素材をはじめとする介入が筋力や筋持久力に与える影響を評価することが可能です。また得られた成果をもとにそのメカニズム探索も同時に行うことが可能です。



食品素材、介入法など



筋機能、筋損傷、筋トレなどの評価



筋機能向上に有効な新素材の発見

キーワード：筋力・持久力、筋損傷、筋トレ
用途・応用分野：食品、医薬品など

アピールポイント

小動物の筋力や筋持久力を精密に測る測定系は世界でも限られた研究室でしか行っていません。多数の食品、医薬品企業や大学、研究所と共同研究実施実績および成果があります。

施術の効果を「見える化」する評価方法の開発



保健医療学部学部 整復医療学科 教授

松田 康宏



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

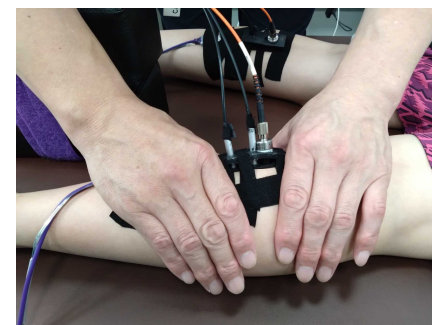
擦る・揉む・押すなどの徒手的施術や物理療法が骨格筋の血流動態に及ぼす影響を、新しい生体光計測技術を用いて筋の微小循環を客観的に評価し、筋血流変化を指標とした評価手法の確立を目指します。

これにより、徒手療法の科学的根拠を構築し、医療やスポーツ現場における臨床応用と教育への発展に貢献するとともに、施術効果の可視化を実現し、EBMの確立に寄与できるよう研究活動に努めています。

徒手的な施術によって 筋血流の促進効果があるのか？



僧帽筋への施術例



下腿筋群への施術例



筋の微小循環の客観的評価法

キーワード：生体光計測、筋血流、施術効果
用途・応用分野：医療、教育

アピールポイント

徒手的施術は広く実施されていますが、その効果は主観に委ねられがちです。研究では施術効果を客観的に評価し、双方が納得できる科学的根拠を示し、臨床および教育の質向上に貢献します。

パフォーマンスを支えるシーズ探索



保健医療学部 准教授

上倉 将太



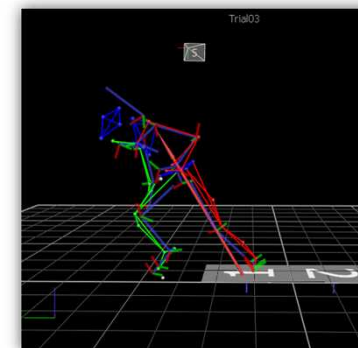
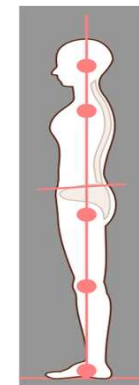
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

リコンディショニング・アスレティックリハビリテーション・障害予防・パフォーマンス向上の為の方法や競技動作の動作解析を研究対象としています。また、身体機能の向上だけでなく、コンディショニングによるパフォーマンスの変化を捉える調査も行なっています。

主な研究テーマ

- ジュニアアスリートのコンディショニング教育
- スポーツ障害予防プログラムの導入
- 体育・スポーツ・医療系教育における実技指導
- チーム・学校単位での継続的身体教育支援



コンディショニングや動作解析の評価



障害予防プログラムの検討

アスリートのパフォーマンス向上と
一般の人の健康増進に寄与

キーワード：スポーツ理学療法 運動療法

アスレティックリハビリテーション 障害予防

用途・応用分野：健康増進・アンチエイジング・介護予防

アピールポイント

理学療法士・トレーナーとして、臨床的視点と現場指導の双方から、スポーツ選手の身体機能と動作を捉える専門家。障害予防・パフォーマンス向上の両立を図るプログラム構築を担当しています。

柔道整復師の活動フィールド拡大



保健医療学部 准教授

樋口 毅史



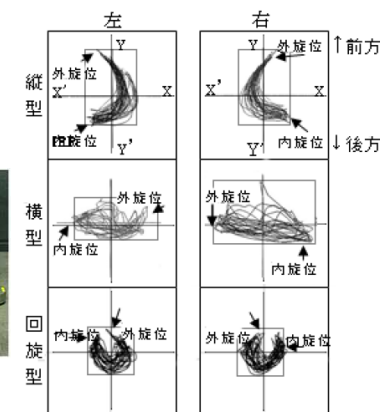
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

私は「障がい者スポーツと柔道整復師」をテーマにパラスポーツトレーナーとして活動、研究を行っています。スポーツ現場での外傷対応が得意な柔道整復師は医学的なハンデを持つ障がい者のサポートにも直接的にサポート可能であり、柔道、陸上、水泳など幅広く活動しています。もう一つは動的重心動揺計を用いた姿勢制御分析を行っています。股関節の内外旋運動から運動機能の評価について研究しています。



スポーツ現場で
トレーナー活動



重心動揺測定とCOP軌跡図の解析

キーワード：障がい者スポーツ、動的重心動揺
用途・応用分野：外傷対応、トレーナー活動

アピールポイント

柔道整復の技術は接骨院の中だけでなく、様々なスポーツ現場で応用可能です。障がいと向き合いながら競技に取り組む選手を支え、かつ勝利に貢献できる喜びを味わいましょう。

柔道整復学で対象となる外傷・障害 に対する探究



保健医療学部 講師

小林 喜之



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

運動器の外傷や障害に対する病態の解明及び受傷機転の解析、治療法について研究していく。対象がアスリートや高齢者であれば一般的な外傷や障害との比較検討し、予防的観点も踏まえて研究する。

また、柔道整復学領域の専門的知識と臨床技術を駆使して治療方法について検証していく事で、健康保持・増進や身体機能改善などの効果が結果として現代社会に良い方向へと導けるよう検討していく。

外傷や障害の発生機転・予防法 治療法・健康保持・増進



これらに対するアプローチ・研究 を進めていく

キーワード：柔道整復学、外傷学

用途・応用分野：予防医学、スポーツ外傷など

アピールポイント

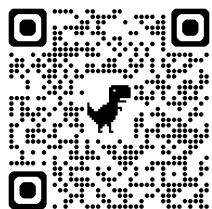
柔道整復師が扱う外傷や障害について、病態や発生機序、特徴的症状、統計的特徴など様々な角度から疑問に思うことを研究していくことで、それらの予防や治療へと導くことができます。

酸化ストレスとてんかんの関連



保健医療学部 教授
日本小児科学会専門医・指導医・評議員
日本てんかん学会専門医・指導医・評議員

川上 康彦



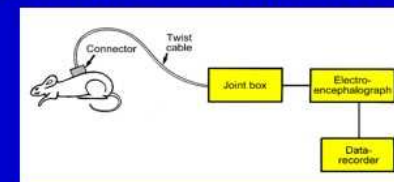
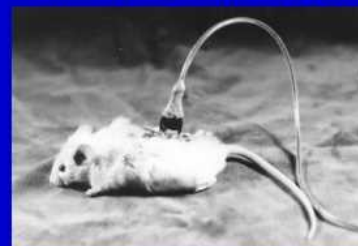
主な経歴・業績
researchmap

研究概要

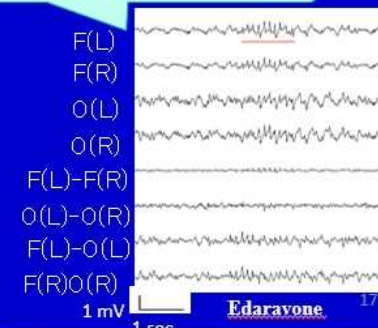
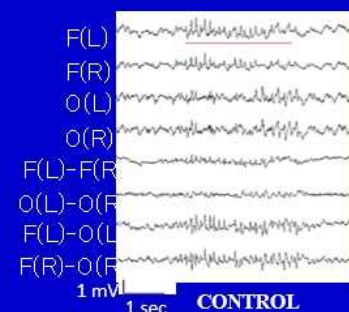
臨床研究によりてんかんの発症に免疫学的機序や酸化ストレスが密接に関与することを示したが、マウスの脳波を測定できる我々独自のデバイスを用いててんかんモデルマウスに抗酸化ストレス剤を投与し、脳波所見の改善・脳内酸化ストレスマーカーの抑制・臨床発作の改善を認めたことを報告した。これはてんかん治療の新しい創薬・臨床応用につなげる可能性としての基礎実験データである。

【脳波記録装置と抗酸化ストレス剤投与による脳波の変化】

抗酸化ストレス剤投与によりてんかん性異常脳波持続が短縮する



Shortened duration of IID



キーワード：

てんかん、モデルマウス、脳波、酸化ストレス

用途・応用分野：

てんかん治療の新しい創薬・臨床応用

アピールポイント

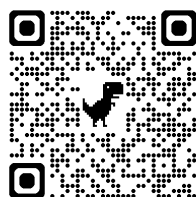
小動物の脳波を測定できる我々独自のデバイスを用いて行う基礎的研究データを得られる

筋力トレーニングによる筋肥大の 細胞・分子メカニズム解明



保健医療学部 救急医療学科（准教授）
体育研究所

阿藤 聡



主な経歴・業績
researchmap



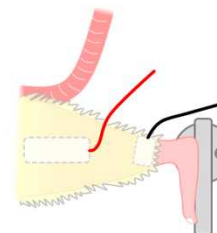
Twitter

研究概要

近年、骨格筋の量や筋力は寿命とも関連する可能性が示唆されており、競技力の向上だけでなく疾病予防の観点からも運動による骨格筋量の増大（筋肥大）と筋力改善効果に注目が集まっています。

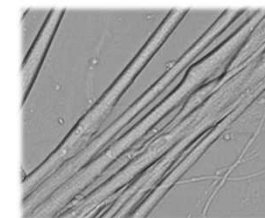
我々は小動物や培養細胞を対象とし、研究グループが独自に確立した小動物の筋力トレーニング模倣モデルを用いて筋肥大と筋力改善の細胞・分子メカニズムの解明を進めています。また、加齢や栄養摂取などの生活習慣と運動効果の相互作用メカニズムの研究を行っています。

実験手法

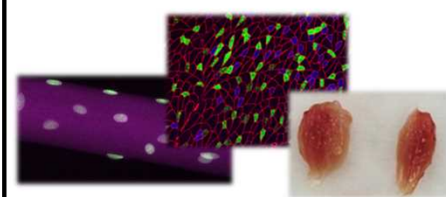


小動物筋トレ模倣モデル

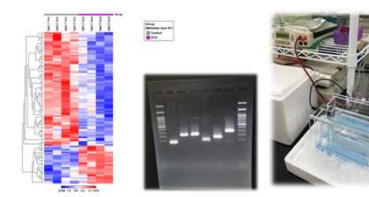
- ・皮膚電極を用いてラット下腿筋に等尺性収縮を誘導
- ・運動プロトコル
→3秒収縮×10回, 5セット
- ・ヒト筋力トレーニングと類似したたんぱく質代謝応答



骨格筋初代培養



組織・細胞の解析



遺伝子・タンパク質解析

骨格筋量, 筋力改善の細胞分子基盤を解明する

キーワード：筋トレ, 筋肥大, 筋力, 加齢
用途・応用分野：食品, 医薬品

アピールポイント

現在、加齢に伴う筋肥大応答の低下（運動抵抗性）のメカニズム解明を目指した研究やマクロなタンパク質代謝（合成・分解）に非依存的な筋肥大の研究を進めています。

VRを活用した教育・研究



保健医療学部 助教

原田 諭



主な経歴・業績
researchmap



研究室HP

研究概要

私は消防・救急の現場経験を基盤に、Virtual Reality (VR) やシミュレーションを活用した救急教育、災害・防災教育の研究を行っています。VRは学生・救急隊員の教育に応用し、その教育的効果を検証しています。災害対応訓練では、災害発生時に適切に対応できる能力の育成を目的とするとともに、その教育効果の分析を行っています。現在は、体育・スポーツ分野におけるVR活用について検討を進めています。



現場を再現するVRを教育に活用



従来の講義と比較検討

キーワード：VR、救急蘇生、災害医療
用途・応用分野：緊急時対応、防災教育

アピールポイント

20年間山口県山口市消防本部で勤務していました。消防経験を活かし、“現場を再現”することをテーマにしています。VRに限定せず、最先端技術を活用し、新たな可能性を探求しています。

生体過大侵襲が救急システムや 救急現場活動におよぼす影響の研究



保健医療学部 助教
救急救命士、防災士、急性期ケア専門士

三橋 正典



主な経歴・業績
researchmap

研究概要

救急救命士養成課程の学生を対象に、病院前救護シミュレーションを用いた実践的教育の設計と評価に取り組んでいます。さらに、シミュレーション中の会話と行動データからAIがノンテクニカルスキルを自動評価する手法を開発・検証しています。加えて、高温多湿環境と運動負荷が熱中症リスクやバイタルサインに与える影響を実験的に検討し、現場の予防指針や教育内容への反映を目指しています。



キーワード：救急救命士、病院前救護、シミュレーション、ノンテクニカルスキル（NTS）評価、AI・大規模言語モデル、熱中症、生体モニタリング、スポーツイベント救護、教育効果評価
用途・応用分野：救急救命士・医療従事者研修への応用、熱中症リスクマネジメント研修・マニュアル作成、AIを用いたNTS評価システム・eラーニング教材の共同開発、大学・専門学校におけるシミュレーション教育の質保証や客観的評価指標の開発。

アピールポイント

救急隊長としての実務経験を基盤に、シミュレーション教育設計、AIによるNTS評価手法の開発、熱中症リスク評価・予防研究を展開しており、これらを組み合わせた現場志向の教育・研修プログラムや共同研究を提案できます。